

令和3年度

研 修 集 録



秋田県立六郷高等学校

目 次

巻 頭 言	校長 佐藤 智 和	
1 校内研修 (授業参観週間)	・ ・ ・	1
第1回	令和3年6月11日(木)～6月23日(火)	
第2回	令和3年1月17日(月)～1月21日(金)	
2 研究授業	・ ・ ・	5
福祉科	斎藤沙織	
福祉科	佐藤しずか	
3 校内研修協議会	・ ・ ・	14
4 各教科における ICT を活用した授業改善の工夫	・ ・ ・	18
5 県総合教育センター研修	・ ・ ・	21
(1) A 研修		
・ 高等学校新任学年主任研修講座	一年部主任 三浦 紀子	
(2) B 研修		
・ 情報教育推進研修講座	図書視聴覚部 伊藤 公介	
(3) C 研修		
・ 人間関係づくりに生かす構成的エンカウンター		
・ 救急に役立つ応急措置	養護教諭 小林 瑠衣	
・ JET English Workshop	英語科 芦原 康一	
6 特別支援教育	・ ・ ・	33
・ 新任特別支援教育コーディネーター研修会		
7 QU アンケート分析会		
・ 生徒指導主事 佐藤隆弘	・ ・ ・	34
8 総合的な探究の時間の取組	・ ・ ・	37
(1) 1年部 学年主任 三浦紀子		
(2) 2年部 学年主任 檜岡明日美		
9 プログラミング教育と地域貢献	教頭 伊藤 哲	・ ・ ・ 50

編集後記

巻頭言 「その先にあるもの」

校長 佐藤 智和

一口に教育課題といってもトレンドがある。

私が教員になりたての頃は昭和も終わりの方であるが、「わかる授業」がキーワードだった。詰め込み教育の弊害が叫ばれ、いわゆる「落ちこぼれ」などの用語がマスコミを賑わしており、教育界全体がもっと丁寧な授業をという方向に舵を切りはじめていた。荒れた学校も社会問題になっており、尾崎豊の「十五の夜」なども生徒のテーマソングとなっていた。そんな殺伐とした学校を元に戻そうと、授業を生徒に寄り添ったものにしてしようという動きは、このとき辺りからであったと思う。

私も「わかる授業」をめざし、自分なりに教材、教案を工夫しているつもりであった。しかし今思い起こすと独りよがりなところも多く、研究発表や公開授業でいろんな方からお世辞で褒められたりするのを真に受け、有頂天になったりしていた。本当に恥ずかしい記憶である。

そんな折、ある校内授業研修会で先輩教師がこういう発言をした。

「皆さん、わかる授業わかる授業と言うが、授業ですべてわかってしまうと、自分で勉強しなくなるんじゃないですか。少しわからないぐらいがいんじゃないですか。」

会全体に対しての発言であったが、自分に対して言われているみたいな気になった。確かに生徒からは「先生の授業を受けていると、数学の問題は簡単に解けるんだという気持ちになるが、いざテストになるとうまく解けない」といった類いの相談も受けたりした。当時、私は「わかる授業」ばかりに目がいって—しかも結果はわかったつもりになる残念な授業—その先にある、今でいう学びに向かう力をどう育てるかには無頓着であったように思う。後に文科省が、意欲・態度も学力の要素であると打ち出した時には、先輩教師の発言を思い出し、その慧眼に改めて感服したものである。

最近のトレンドは、学習評価であろうか。これについても本質を見誤ると危ういことになりかねない。目の前の評定のつけ方などの細部に拘泥しすぎることなく、その先にある教師の指導改善や生徒の学習改善につながるものにしていきたいものである。

この研修収録には、寄稿した職員の奮闘ぶりが記録されている。同時に、それぞれの職員が持つ生徒への思い、教科への考え、様々な「その先にあるもの」が詰まっている。読者諸氏には、それらを読み取ってもらえれば幸いである。また、ご助言などいただければ有り難いところである。

最後になるが、今回も研修収録が発行でき、うれしい限りである。寄稿した職員、編集に携わった職員にお礼を申し上げたい。こういう地道な作業が授業改善、授業力向上につながると信じている。

1 校内研修：授業参観週間を年2回実施し、授業参観者にアンケートを実施。アンケートの主な感想を以下にまとめた。

(1) 研修テーマ 『電子黒板、タブレット等のICT機材を活用した、基礎学力の定着・楽しく分かる授業』を実現する

(2) 目的 教科を越えてお互いの授業を参観し、感想や意見を交換することで授業の改善に活かす。

(3) 実施期間 第1回 8月30日(月) ～ 9月3日(金)

第2回 1月17日(月) ～ 1月21日(金)

(4) 参観教科・感想

参観教科 (科目)	学年	参加者 教科	参観者感想
国語	3年	家庭	・前時の学習を、google フォームで共有しながら振り返ることで、個々の生徒の力を確認しやすいと感じた。その際、取り組みの状況を、教師が適宜タブレットで把握し、助言を行うことで、生徒の学習に対する姿勢にも変化が見られた。全員で共有シートを見ながら解説、答え合わせを行うことで、自分とは違う解答や、どのような間違いをしやすいのかについて理解が深まりやすいと思った。タブレットからプリントを用いることで、本時で身に付けさせたい力の定着を図ることができると感じた。教科書だけでなく、電子黒板も活用し、次時の学習内容に見通しを持たせることはとても効果的であると思った。
地理歴史・公民	3年	福祉	・生徒との丁寧なやりとりを行っていて、一人一人の様子をよく把握しながら、生徒の特徴に合わせた指導をしていると感じた。プリント学習では、生徒の習熟度に合った問題を作問していて、集中して取り組んでいる様子だった。電子黒板で地図や写真を用いて、理解しやすくなるよう工夫された授業だった。
数学A	1年	保健 体育	・本校の生徒へどのように数学を指導しているのか興味があり、参観させていただきました。とても優しく丁寧に説明されていて共感が持てました。ただ生徒がどれだけ理解しているのか、心配であったが、ぼーっとしているわりにはしっかり答えを導きだせていた。先生も机間巡視指導を行い、個人指導をやりながら答えを誘導していました。数学の授業を参観し、高校時代を思い出しました。ちなみに私は数学が好きです。

数学A	2年	数学	<ul style="list-style-type: none"> ・2年2組教養家庭コースの数学Ⅱは私が担当していますが、生徒は私の授業よりリラックスしていて、平面図形のプリントを和気藹々取り組んでいるようでした。最初に本時で扱う既習事項についてまず全員で確認し、定理・公式等を板書した上でプリントを配付するやり方もあるように感じました。2年1組の黒板に3校時の内容が残っていましたが「本時の目標」が明示され、大事なポイントも色チョークを使って協調されていたのが確認できました。
理科	2年	英語	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な板書、わかりやすい説明でした。生徒を引き付ける話術、トークも勉強になりました。日頃からICTを意識された授業づくりで参考にさせていただきます。
理科	2年	英語	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的にタブレットをはじめとしたICTが使用されているのに正直驚いた。同時に自分自身が立ち後れていることを痛感した。新しい手法が積極的に使われていて生徒にとって刺激になっていると思われる。 ・板書がとても見やすく、ノートにまとめやすい。休み時間に炉辺談話した際に板書にどこまで盛り込むか、この点を熟慮されて板書研究されていると推察できる。私自身も板書研究を更に進めたい（電子黒板が十分使えない分）。 ・学習内容がレポート課題などの設定に当たり、日常生活に関連した実用的、かつ興味深いものになっているため、生徒が意欲的に学習に取り組みやすくなっている。つい内容を難しくしてしまいがちだが、いたずらにただ難しいのではなく、自発学習につながっているので、私自身も課題の在り方を更に追求したい。ただのテスト対策から脱却できるようにしたい。
体育 (体育)	1年	地歴	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいと目標がホワイトボードを使って明確に提示されていた。ダンスの授業だった。タブレットを使って振り付けを考えたりしていた。協調して取り組む必要があり難しいと思った。生徒たちはリラックスしながら取り組んでいた。また、コロナ渦で運動不足を訴える生徒が多いので、体育の授業はとても貴重な時間だと改めて思った。
芸術	1年	商業	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で自分の役割を考えながら活動していました。リズムを取るのはなかなか難しそうでしたが、少しずつ形になっていくと楽しいと思いました。 ・スライドで学習の流れ、楽譜などを映し出していてわかりやすかったと思います。 ・(担任としては)グループに女子が一人なので、コ

			<p>コミュニケーションがしっかりとれるのか心配でした。まだ男女間で距離があるように感じられましたが、このような機械に、男女関係なく仲良く学習できるようになってもらいたいと思いました。</p>
福祉	1年	国語	<p>・電子黒板で現実の施設の様子を動画で映し出していた。利用者の方の体の動きや職員の方の介助の様子をととてもわかりやすく伝わったと思う。利用者の方の動きに注目させ、生徒達によく考えさせていた。臨機応変に介護の現場で対応できる力を育成していくためにも、良い授業だと思う。</p>
外国語	1年	理科	<p>・テンポ良くコミュニケーションを取りながら、授業展開されていた。作業内容を適切に提供することで、生徒全員が活動的で雰囲気よく授業されていて、見習いたいと思った。板書も大きく書かれており、ノートを取りやすく工夫していた。</p>
情報	1年	商業	<p>・ドキュメントでの文書作成を初めてみました。文字入力に苦労している生徒が多いのではないかと想像していましたが、予想以上にスムーズでした。生徒たちは意欲的で、「先生！」とあちこちから質問の声が飛んでいました。それに対し、一人一人に丁寧に指導されていました。やはり本校の場合、TTが理想だと思いました。（商業科としては、2年次からのビジネスコースには、Word、Excel、Powerpointの基本的な知識と操作能力、そしてある程度のタイピング力を期待したいです。）</p>
家庭総合	1年	芸術	<p>・家族の介護という問題について「自分だったら」と考えさせ、自分の考えを基に、他者の考え、視点を学ぶことができる授業でした。黒板全体を使って、2つの意見を対照的に配置し、見やすい板書構成になっていました。また、自分の立場を示すのに、教室で日常は日直を示すために使われている氏名のマグネット掲示を使い、誰がどの意見なのかを明確にしていたところが素晴らしかったです。</p>
保健体育	1年	英語	<p>・日常生活に身近な話題ですが、学問として捉えるには難しい領域だと思います。それを豊富な具体例から分かりやすく教示されようとしている先生のご苦勞が感じられます。また、丁寧なワークシートで、生徒が学習内用をクリアに理解しやすい仕上がりになっていて参考にしたいと思います。比較材料など多くの例を出すことで、生徒に気付かせ、理解と確認をさせるような流れは、是非参考にしたいと思います。</p>

2 研究授業

- (1) 研究テーマ 校内研修（授業参観期間）同様に、「『電子黒板、タブレット等のICT機材を活用した、基礎学力の定着・楽しく分かる授業』を実現する」とし、実施した。
- (2) 目的 生徒の理解度を把握した教材の選択や、より効果的な授業実践を工夫するために、教材研究・分析を重視し、補助教材・ICTを適切に活用することで、授業改善や学習意欲の向上につなげる趣旨で実施した。
- (3) 実施日 9月3日（金）
- (4) 授業実施者 斎藤 沙織（福祉科）、佐藤しずか（福祉科）
- (5) その他 指導案、参観者感想、授業研修協議会の内容は次項以降に記載

「こころとからだの理解」学習指導案

実施日/場所：令和3年9月3日（金）2校時/3年3組教室
実施学級：第3学年福祉科16名（男子5名、女子11名）
使用教科書：認知症の理解中央法規出版介護福祉士養成講座
授業者：斎藤 沙織

1 単元名

第5章 介護者支援

2 単元の目標

- (1) 家族介護者を支える介護福祉職の役割を理解するとともに、関連する技術を身に付けること。
- (2) 高齢社会に伴い、認知症の人を支える介護者の諸課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決すること。
- (3) 認知症を取り巻く状況について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと

3 単元と生徒について

(1) 単元観

認知症の人を支える介護者を理解するためには、認知症の人の心理状態や認知症特有の症状、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解していることが前提となる。また、2025年には、日本の認知症高齢者数は700万人(高齢者の5人に1人)に達し、誰もが関わる可能性のある身近な病気である。

認知症ケアの目指すところは、認知症の人が楽しく豊かな生活を送るだけでなく、家族介護者や施設介護者など支援する人々が楽しく豊かな生活を送ることであり、そのことを理解し、介護福祉職として広い視野と価値観を身に付けてほしい。

(2) 生徒観

介護福祉士を目指し、福祉の専門科目や実習を通して必要な知識を身に付けている。9割の生徒は介護福祉職として就職を希望しており、他の生徒も将来、福祉専門職を目指し、福祉系の学校の進学を希望しているため、福祉に対して意識が高い。現在、施設実習では介護過程を実践しており、利用者支援に向けて取り組んでいる。基礎的な知識の定着や思考力はあるものの、考えを述べたり、言葉にして伝えたりすることが苦手である生徒も多い。

(3) 指導観

認知症の人を支える介護者に関する諸課題を発見し、介護福祉職としての倫理観や課題解決能力を養うために、主体的に考えさせ、グループワークを通してさらに考えを深め、全体で共有できる場を設ける。また、生徒が自らの言葉で考えや思いを発表できるよう、対話的な授業を意識しながら進めていきたい。

4 指導と評価の計画

(1) 指導計画

第5章 介護者支援…6時間

第1節 家族への支援

- 1 認知症の人の家族を支える視点…1時間
- 2 認知症の人の家族の心理過程と葛藤…1時間
- 3 認知症の人の家族へのレスパイトケア…1時間
- 4 介護福祉職が行う認知症の人の家族への支援…1時間

第2節 介護福祉職への支援

- 1 働きやすい職場環境の整備…1時間
- 2 ケアモデルを実践するための環境整備…1時間

評価基準

関心・意欲・態度【A】	思考・判断・表現【B】	技術【C】	知識・理解【D】
認知症を取り巻く状況について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	高齢社会に伴い、認知症の人を支える介護者の諸課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決している。	認知症の特性を理解したうえで、介護者の支援方法に関連する技術を身に付けている。	家族介護者を支える介護福祉職の役割を理解するとともに、介護者の心理面を理解することができる。

5 本時の計画

- (1) ねらい 事例を通して家族介護の課題を多角的に発見し、根拠に基づいた支援方法を考える。
 (2) 展開

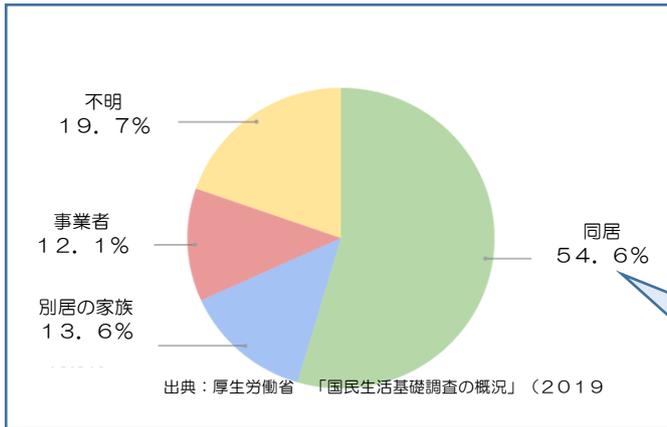
	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (10分)	事例①-1 (当事者視点の事例) を読み、その状況やイメージしたことを発表する。 事例①-2 (実際の事例) を読む。 本時の目標と流れを確認する。	事例①-1 からどのような状況が読み取れるか発表させる。 事例①-2 を読み、当事者視点と介護者視点の違いに気づかせる。 本時の目標と流れを提示する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 本時の目標：介護者の身体的・心理的・社会的課題を発見し、支援方法を身に付けよう。 </div>			
展開 (35分)	日本の要介護者と介護者の現状について理解する。(10分) ①「要介護者の主な介護者の状況」 ②「在宅介護が抱える介護者問題」 ③「要介護者の年齢階級別にみた同居の主な介護者の年齢階級構成割合」	①日本は在宅介護が多いことを把握できるようグラフを用いて説明する。 ②・老老介護・認知介護・ダブルケア・多重介護・ヤングケアラーについて簡潔に説明する。 ③要介護者の年齢が上がるにつれて、介護者は配偶者から子が介護していること表を用いて説明する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;"> 発問：介護者の課題を見つけよう。 </div>			
	④仕事と介護の両立をしている人の1日から課題を発見する。(5分)	④個人で予想される課題や問題点を考え、ワークシートに記入させる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;"> 発問：課題を解決するために、どのような支援が考えられるか？ </div>			
	⑤個人で考えた課題をグループ内で発表し、支援方法について考える。(15分) ⑥課題と支援方法をグループごとに発表する。(5分)	⑤課題から根拠に基づいた支援方法を考えるよう指示するとともに、グループの話し合いの状況に応じて助言する。 ⑥chromebook を用いて、話し合われた課題と支援方法を電子黒板に映し、全体で共有する。	課題を見つけ、支援方法について考えることができる。 【B】 (ワークシート)
まとめ (5分)	本時の振り返りをする。		

3年3組 番 氏名

【本時の目標】

_____者の身体的・心理的・社会的課題を発見し、支援方法を身に付けよう。

① 【要介護者の主な介護者の状況】



② 【在宅介護が抱える介護者問題】

- 老老介護
- 認認介護
- ダブルケア
- 多重介護
- ヤングケアラー

《要介護者と介護者の続柄》

配偶者：23.8%
子：20.7%
その他：9.8%

③ 【要介護者の年齢階級別にみた同居の主な介護者の年齢階級構成割合】

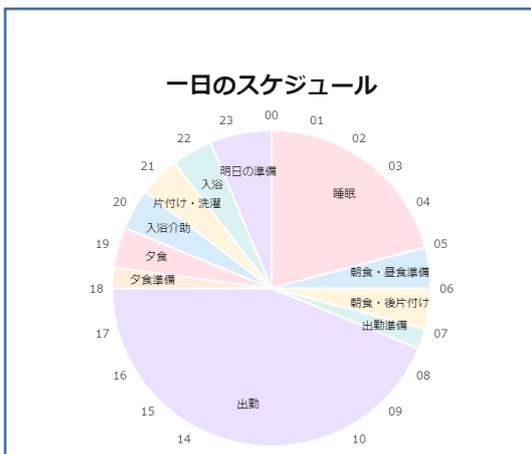
(単位：%)

同居の主な介護者の年齢階級	要介護者等				
	65歳未満	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上
40歳未満	1.8	7.4	1.8	1.1	0.6
40～49歳	16.0	4.4	9.5	4.3	2.5
50～59歳	24.4	5.7	9.6	31.6	10.3
60～69歳	29.5	59.3	12.7	21.6	58.2
70～79歳	18.8	21.6	56.0	16.2	18.4
80歳以上	9.5	1.6	10.2	25.1	10.1
総数	4.1	4.2	23.7	42.7	25.3

注：「総数」には、主な介護者の年齢不詳を含む。

出典：厚生労働省 「国民生活基礎調査の概況」(2019年)を一部改変

④ 【仕事と介護の両立をしてる人を例に介護福祉職として予想される課題や問題を考えよう。】

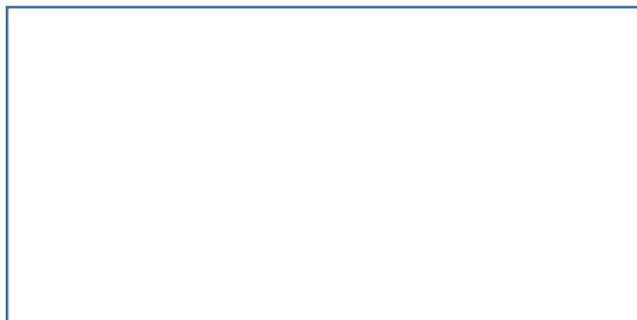


ケース① 【仕事と介護の両立】

笹竹 清さん(55歳 男性)は、母と同居している。母は数年前から、認知症のような症状があり、寝たきりではないがトイレや入浴などのほとんどの面で介護が必要であった。笹竹さんは、誠実でまじめな性格から、仕事と介護の両立を一生懸命こなしている。

⑤介護福祉職（介護者を支援する立場）として、予想される課題や問題は何か？

⑥課題を解決するために、どのような支援ができるか？



母は、認知症が進行し暴力をふるうようになってきた。嘔みついてくることもある。しばらくすると、何事もなかったかのように「その傷どうしたの？」と聞いてくるが、病気だから母は何も悪くない。

母は、糖尿病を患っていたため、食事の量や内容を制限していた。夜中に「何か食べせろ」と大声を出す。出すわけにはいかないから放っておくと明け方までわめき続けた。近所から、夜中に声がうるさいと度々苦情が届いた。

意味の分からない言葉で罵り、「帰れ」「あんたはどこの誰だ」「嫌いだ」と言う。そんな時は、うんと頷いて、興奮が収まるまで優しく背中をさすり続けた。、あの優しくった母親から「あんた」と呼ばれ、生きていることがこんなに辛いと思ったことはなかった。

毎晩のように、トイレに数十回おこされ、あまりの辛さに、楽しいと思えることもなく、一日中頭の中はぼーっとしていた。

母が認知症になってから介護だけでなく、掃除、洗濯、食事、買い物全般を担っていた。それでも母から感謝の言葉一つなく、意味不明な暴言が飛んでくる。それでも耐え続けた。

新潮文庫毎日新聞大阪新社会部取材班「追い詰められた家族の告白」より一部改変

～ 斎藤教諭の授業の様子 ～



「生活支援技術」学習指導案

実施日／場所：令和3年9月3日（金）3校時／介護実習室

実施学級：第2学年福祉科10名（男子6名、女子4名）

使用教科書：生活支援技術（実教出版）、
生活支援技術Ⅱ（中央法規出版）

授業者：佐藤 しずか

1 単元名 「自立に向けた食事の介護」

2 単元の目標

- (1) サービス利用者の状態・状況に応じた食事の介護の技法を理解しているとともに、適切で安全な支援方法を身につける。
- (2) サービス利用者の自立に向けた食事の支援の在り方や具体的方法についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。
- (3) 食事の意義や目的、サービス利用者の心身の状態・状況に応じた適切な食事の介護方法などについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。

3 単元と生徒

(1) 単元観

利用者の状態や状況に応じた、安全で楽しい食事の支援について理解するために、食事の意義や目的、食べる意欲を支える支援方法、食事における安全面への配慮、誤嚥や窒息の防止、脱水の予防などの留意点及び緊急時の対応など、自立に向けた食事に関する基礎的な支援方法と留意点などについて実習を含めて扱う。また、咀嚼・嚥下障害、感覚障害、認知障害など、機能低下や障害が食事に及ぼす影響についても扱い、基礎実習での食事介助の実践に向けた介護技術を習得する。

(2) 生徒観

福祉科の2年生は夏季休業中に5日間の導入実習を終え、10月から基礎実習を実施する。コミュニケーションや見学が中心だった基礎、実習と異なり、基礎実習では身体的な介護を実施することになるため、不安を感じている生徒がほとんどである。少しでも不安をなくそうと、実技の授業に集中して取り組む生徒が多い。

体験的な学習や、生徒が主体となる調べ学習に対して意欲的に取り組む姿勢が見られる。しかし、自分の考えや根拠を適切に言語化することが苦手である。また、適切に言語化することができても、発表することが苦手な生徒もいる。グループワークで意見を共有し、それぞれに発表の機会を提供する必要がある。

(3) 指導観

自分たちが実際に「食べる」という体験の時間を設けることで、利用者の気持ちに寄り添えるようにする。根拠を明確にした介護の実現のために、手順ひとつをとっても、なぜこの順番なのか、なぜ声をかけるのかという「なぜ」の視点を意識させ、自分の言葉で表現できるようにさせたい。今まで福祉科目で学習してきたことと、食事の介護を結びつけて考えられるように、適切な助言や発問を行い、授業を展開したい。

4 指導と評価の計画

(1) 指導計画

第2章 自立に向けた食事の介護（10時間）

① 食事の意義と目的……2時間

② 自立に向けた食事の介護……6時間（本時1/6）

第1時 食事の介助を行うにあたって（本時）

第2時 利用者の状態に合わせた食事の介助

第3・4時 誤嚥の予防のための支援

第5・6時 食事介助の実践

③ 食事の介護における多職種との連携……2時間

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
食事の意義や目的、利用者の心身の状態・状況に応じた適切な食事の介護方法などについて自ら学び、意欲的に取り組むことができる。	利用者の自立に向けた食事の支援の在り方や具体的方法を考え、自分の言葉で表現したり、心理面を考察したりすることができる。	利用者の状態・状況に応じた食事の介護の技法を理解するとともに、適切で安全な支援方法を身につけている。	自立に向けた食事の介護に関する基礎的知識を理解している。

5 本時の計画

(1) ねらい

食事介助の際に献立の説明が必要な理由を、食事形態や高齢者の身体状況の変化と関連づけて理解し、自分の言葉で説明できる。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (10分)	<p>① 本時の目標を確認する。</p> <p>② 本時の流れを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードの本時の目標、本時の流れを読み上げる。 ・授業プリントを配付する。 	
	<p>目標「食事介助で献立の説明が必要な理由を考え、自分の言葉で説明することができる」</p>		
	<p>発問：食事介助で、利用者に献立の説明が必要な理由を考えて</p>		
展開 (30分)	<p>③ 摂食・嚥下の過程を復習する。</p> <p>④ グループごとに、A（リンゴのすりおろし）とB（梨のすりおろし）を試食し、何の食べ物か予想し、確認する。</p> <p>⑤ 3つの形態（a 通常、きざみ、c すりおろし）のリンゴを試食し、それぞれの「見た目」、「味」、「飲み込みやすさ」を評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食・嚥下の過程を復習させる。 ・A、Bの試食をさせる。口に入れる前に①よく見る②においを嗅ぐことを意識するよう指導する。食べたなら③よく味わうよう助言する。 ・A、Bを予想させる。 ・3つの形態のリンゴを試食させ、「見た目」、「味」、「飲み込みやすさ」の評価をプリントに記入させる。 ・高齢者の状態に応じた食事形態を確 	

	<p>⑥ 高齢者の状態に応じた食事形態（常食、きざみ食、ミキサー食）を確認する。</p> <p>⑦ 加齢によるものの見え方の変化を確認する。</p> <p>⑧ 食事介助で献立の説明が必要な理由を考え、グループ内で意見を共有する。</p> <p>⑨ グループ内で共有した意見をまとめ、代表者が発表する。</p>	<p>認させる。きざみ食やミキサー食の場合、見た目だけでは何の食べ物か判別がつかないことを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加齢による見え方の変化で、常食であっても判別が難しいことを理解させる。 ・食事形態や見え方の変化を踏まえて、献立の説明が必要な理由を考え、グループ内で意見を共有させる。 ・グループの発表を電子黒板に提示し、共有させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・献立の説明が必要な理由を考え表現できる。 <p>【思考・判断・表現】</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>⑩ 食事介助で献立の説明をすることで、食事形態や身体状況の変化により食事の判別が困難な場合に何の食べ物の判別でき安心感が生まれたり、食べたいという気持ちを引き出したりできることを理解する。</p> <p>⑪ 振り返りシートの記入（ファイル）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめの記入をさせる。 ・来週の月曜日に振り返りシートを提出するよう指示する。 	

～ 佐藤教諭の授業の様子 ～



高齢者の状態に応じた食事形態

(食事形態) (高齢者の状態)

- ①通常食 …………… 咀嚼、嚥下機能に問題がない
- ②きざみ食 …… 咀嚼は難しいが、嚥下機能に問題がない
- ③ミキサー食 …… 咀嚼が難しい。食べ物を喉に送り込めるが、固形物では難しい

加齢による身体機能の変化

《視覚》

- ・本来の色とは違った色に見える
 - ・ぼやけて形がよく分からない
- 見えていても「正しく認識できない」場合がある

視覚のほかにも……

今日の授業を踏まえて、なぜ食事の献立の説明が必要か考えてみよう。

なぜ食事の献立の説明が必要か

まとめ 献立の説明が必要な理由

3 校内研修協議会

(1) 日 時 令和3年9月3日(金) 9:00～15:15

(2) 会 場 六郷高等学校 (会議室)

(3) 授 業 者 斎藤沙織、佐藤しずか

(4) 研究協議会 司会 菅 徹 (研修部)

出席者： 伊藤 哲 越後谷育子 宮川皇子 三浦紀子 高木敦子
 栗津奈々 檜岡明日美 伊藤公介 小松徳彦 小田長裕之

(5) 協議会出席者 意見・感想

対 象	参観者	参観者感想
全体	福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ・とても難しい内容であったが、ICTをフル活用して生徒が間違いそうなところもしっかり指導をしていた。斎藤先生は、自分のクラスということもあり、今後は介護福祉士試験に向けてしっかり生徒を頑張らせて欲しい。授業では施設の認知症の知識だけではなく、在宅介護についても考えさせる内容だった。生徒の姿勢はとても良かった。 ・佐藤先生は他県でも教えてきたこともあり、進度が早く組み立てが上手である。食事を体験させそれを通して介護を考えさせる視点はよかった。大切なところはしっかり押さえられていた。
全体	斎藤沙織	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の単元を研究授業に選んだ理由は、普段の授業で身に付けている利用者の視点と家族の視点等を結び付け、多角的な視点を身につけてもらいたかった。課題や支援方法について考えさせることも目的とした。特に、身体的、心理的課題についての支援を理解して欲しいと考えた。 ・介護の方法だけでなく、社会的側面の課題を見つけ、レスパイトケアについて課題に適したケアを選んでいた。少しずつ知識と技術が定着してきている。
全体	佐藤しずか	<ul style="list-style-type: none"> ・10月から実習が本格的にはじまり、入浴、食事、排泄介助を行うことになっている。食事実習は夏の実習で経験し、介護者の中には、利用者が時間内に食事を終わらせることができないというところに焦りをもっている人が多い。介助者目線ではなく利用者はどのような思いなのかを考えて欲しいと考えた。 ・自分の考えをもって発表するために考える時間が、試食時間を確保し過ぎたため少なかった。ここは反省

		点であるが、なぜ献立の説明が必要なのかの解答を導くことが出来ている生徒がいたことは良かった。次回は自分の言葉でまとめさせたい。グループ編成は課題が残る。
齋藤沙織 (授業者)	芸術科	・グループでの役割を果たし、積極的に話し合いが行われ相手の意見を聞く姿勢が出来ていて良いと感じた。ICTの活用がとても上手だと思った。幅広い視点で色々な意見を受け止めるができていた。
	家庭科	・コロナ禍で実習もできない中、家族も施設に入ることができない状況が続いている。実際に介護を経験している高校の先生に仕事と介護の両立についてインタビューしたりすれば知識として学んでいることの信憑性が高まるのでは。家族の人とロールプレイングし、課題を見つけることが出来れば良い。
	情報科	・指導案を見たときは、量が多いと感じたが実際授業を拝見し丁寧で素晴らしいと感じた。しっかり校内研修の役割を担ってもらった。研究授業は「新しいことをやってみよう」という気持ちで、失敗はいくらしてもいい。他の教科の先生の視点は、生徒の視点であるのでとても大事である。 ・簡単な質問は、座ったままでいいけれど、発問は考えを聞くことであるので、重要なことは立たせて答えさせる。ICTの共有の仕方が良かったと思う。
佐藤しずか (授業者)	理科	・利用者に触れて、介護を現実的に捉えていたからこそできる授業だと感じた。生徒がしっかり意見を伝えている姿勢を見習いたい。理科の分野にも通じる部分があり、体験に基づいての授業の大切さを実感した。
	商業科	・グループは皆落ち着いて、授業に向き合っていると感じた。試食させ体験的に気付かせて考えさせるプランが出来ていた。電子黒板を活用し、ミキサー食を提示するなど分かりやすかった。
	数学科	・ICT活用と黒板活用の違いを教えてほしい。 (回答)動きを付けられること、文字では説明できないことを動画で示せるのは良い。また、話し合いでは、まとめる作業を他者で行うことで、深い考えを持てるようになると感じる。

(6) 授業参観者感想記入カードまとめ (抜粋)

授業者	参観者	感想 (授業参観者の記入カード内容)
齋藤沙織	数学科	<p>・肩に力が入っておらず、いわゆる「自然体」で授業をされていました。なかなかできることではないと思います。素晴らしいことです。ですから、授業も流れるような進行で、生徒も集中して参加できたようです。その場でPCに入力し、電子黒板で共有するという実践も先進的な取組と拝見しました。いつか、全県的な規模で披露されてもよいのではと思いました。アドバイスのものはほとんどありませんが、あえて挙げれば、作業途中の指示はなるべくしないようにしたいという位です。</p>
	保健 体育科	<p>・介護疲れによる無理心中が多々ある中での今日の授業で、介護福祉職の在り方を深く考えさせられる、私にとっても勉強になる授業でした。サービスを使うにしても経済的なことも絡んでくるのでこれが課題なのかと思った。授業ではさすが福祉科ということで、介護方法や介護用語がすらすら出てきて素晴らしい生徒たちだなと感心した。また、各班の意見がタブレットを通してすぐに電子黒板で全員にシェアできる授業は素晴らしいと感じた。</p>
	芸術科	<p>・落ち着いた雰囲気学び合う姿勢が身につけていると思いました。グループ活動では相手の意見に耳を傾けて考えを共有しようとする様子が見えて、素晴らしいと思いました。スライドを共有して、すぐにその場で発表した内容を視覚でも認識できるのが良かったです。大変勉強になりました。</p>
	家庭科	<p>・普段は、利用者の気持ちや、利用者から見た介護士はどうあるべきかという視点の学習や実習が主だと思いますが、利用者の家族の視点から考えることで、福祉という言葉の深い意味や、これからの時代に求められる福祉の在り方に気がつくことができた授業だと思いました。電子黒板、Chrombook、プリントを効果的に使用することで、学習の内容にもより深まりが出たと思います。</p>
	商業科	<p>・導入での当事者視点と実際の対比がとても効果的だと思いました。先生のかけにより本時は介護者に視点を向けるということが明確になり、生徒は今日は何を狙いとして考えるべきか、しっかりとらえていると思いました。Chromebook を用いての発表に感動しました。話し合いの間に生徒は戸惑うことなくまとめていて、日常から取り組んでいないとなかなか出来ることではないと思いました。これだけできる生徒だと知り、私自身もっと活用していかなければと反省しました。先生が最後のまとめで伝えてくれた言葉もとても心に響きました。</p>

		が良く見えたと思います。生徒も前向きに授業に挑んでいて雰囲気がとても良く勉強になりました。
	福祉科	・電子黒板の使い方をあまり良くわからなかったので、今日の授業を拝見し、勉強不足を痛感した。ICT活用の大切さ（良さ）を知ることが出来て、勉強しなければならないと思った。
佐藤しずか	国語科	・電子黒板に映し出すことで、板書に気をとられることなく授業ができ効果的であった。実際に生徒に「食べる」という体験をさせることで、実感をもって学び、利用者の方に寄り添う気持ちも育てられると思う。パワーポイントがとてもよく作られていた。生徒が答えるとその場に出てくる形にするとさらに良いように感じました。献立の説明が必要な理由を自分の言葉で説明する場面を見たかったです。
		・実際に食べ比べてみることで、献立を説明する必要性を理解させるという本授業の目的は、生徒の反応からもしっかり達成できたものと見ていて感じました。ホワイトボードで「本時、常に意識させること」を、電子黒板で「今現在意識すること」が明示され、二つの教具の使い分けが非常にわかりやすいと感じました。授業者の指示が聞き取りやすく、生徒が今何をすべきかしっかり理解した上で授業が進んでいたように思います。黒板で「普通食」、プリントで「通常食」とあったので、統一した方が分かりやすいかな、と思いました。
	理科	・献立の説明の必要性を考えさせることで、食事を通してサービス利用者が施行と行動を一致させ、それをよろこびと感ずることで、自ら自立へと近づいていこうとすることを、生徒が学べるように計画された授業であったと思う。それが生徒にも伝わったと思った。電子黒板は教科書より情報を小出しにでき、考えさせるのに有効だと思う。
	家庭科	・電子黒板の資料や写真の掲示がとても効果的だと思いました。加齢による変化について頭の中では言葉としては理解していても、実際の生活にどのような影響があるかを想像することは難しいと思うのですが、試食をしたり見え方を掲示したりと様々な先生のしかけで、生徒が体験を通して理解できていると感じました。ねらいも明確だったので、ワークシートを除くと生徒たちは自分の言葉でしっかり説明できているようでしたよ。私自身とてもおもしろく、興味を持って参加でき、とても勉強になりました。ありがとうございました。
	商業科	・授業のコーディネートがとても丁寧だと思いました。だから、生徒は素直に反応するのだと思いました。信頼関係がすばらしいと思いました。体験しながら考えを深めていく活動はとても効果的であると思いました。何か活動をするとき、電子黒板に何か移したとき、生徒が「え～」とか「へ～」とか、興味を持って反応しているので、授業に楽しんで集中して取り組んでいる様子が伺えました。勉強になりました。 ・学習の目標・流れが提示されていて良かったと思います。試食後の

		感想は生徒に発現させても良かったと思います。電子黒板の使い方が良かったと思います。特にミキサー食・きざみ食・普通食と比べられたところが分かり易かったと思います。
	福祉科	・楽しい授業の雰囲気が伝わってきた。どの時間（授業）も準備された内容で生徒は「分かる授業」をしていると思う。目標には到達できなかったことは課題だが内容が素晴らしかった。ICT活用は見事である。勉強しなければと後押しされた。
	数学科	・ホワイトボードにあれだけきれいな字で書ける教員はいない。「通常食でも説明が必要」という発問が、本時のベストでした。生徒も「え、どうして」と反応しており、生徒の気持ち（意欲）を更に高めたように思いました。授業の流れをよく練った成果と拝見しました。電子黒板もよく使いこなし、特に高齢者の見え方の提示は効果的であったと思います。アドバイスのものはほとんどありませんが、あえて挙げれば、前半の展開をもう少しコンパクトにしてよかったかなという位です。

4 各教科におけるICTを活用による授業改善まとめ

教科	ICTの活用方法、効果的だったこと等
国語	<p>○言葉の意味の確認や文章の要約作り等で、Google フォームを活用した。ラジオボタンや記述による解答をさせた結果を各自で確認させることで、効率的な時間の使い方ができた。</p> <p>○教材に係る資料をスライドにし、各自が端末上で確認できるようにした。各自のスピードに合った活動が可能になった。</p> <p>○写真や動画といった映像資料を電子黒板に映写した。生徒に興味関心を持たせると同時に理解度を高めることができた。</p>
地歴 公民	<p>○各単元ごとのスライドを作成し、classroom から見られるようにし、効率的に授業に展開できた。授業展開次第によっては、電子黒板も併用して解説を行った。</p> <p>○調べ学習を行い、内容のまとめと発表を実施した。</p>
数学	<p>○数学のプリントの解答を書画カメラを使って動画として作成し、Google フォームにリンクで貼り付けた。解答をただ見せるよりは動きを見ることで生徒も理解が深まるように感じた。</p> <p>○小テストをGoogle フォームを活用し、正答、採点、集計を行った。</p> <p>○授業で扱うプリントのPDFを電子黒板で投影することで時間を節約や、正確な図に複数の色を用いることが可能になるなど、生徒の理解を助けるため有意義に活用できた。</p>

理科	<p>○Let's view ソフトで、スマートフォンのミラーリングを行うことで、スマホのフリーソフトを活用した。色盲の見え方を実感できるようになり、また錯視錯覚についてもゲームを用いながら実感できるよう工夫した。</p> <p>○動画において、染色体、遺伝子の構造と、最新の科学知識を習得できるよう工夫した。</p> <p>○新型コロナウイルスについての調べ学習を行った。</p>
保健体育	<p>○集団の動きをカメラで撮影し、フィードバックに活用した。</p> <p>○保健の授業で調べ学習を行う際に活用し、知識を深めた。</p> <p>○学習したことを活用し、感染症に対する啓発ポスターを作成した。</p>
芸術	<p>○器楽演奏発表をカメラで記録し、技術向上につなげた。</p> <p>○Youtube で参考演奏動画を検索し、手本にして練習した。</p> <p>○器楽実習後のふりかえりを Google フォームで入力し、習熟度や活動内容について統計的に把握できた。</p>
外国語	<p>○グループワークにて学習アプリ kahoot を使用し、共同学習を行った。</p> <p>○ドキュメントの音声入力機能を利用し、発音チェックを行った。</p> <p>○音声と同時進行で、本文を電子黒板に表示し速読を行った。</p> <p>○読解のポイントを電子黒板に表示し、解説を行った。</p>
家庭	<p>○被服実習のポイントを、書画カメラを使用して動画にし一斉指導で理解を深めた。</p> <p>○各省庁のホームページを閲覧しながら、最新の情報を踏まえて生徒の実生活に必要な知識を深めた。</p> <p>○生徒の意見や考えを、一斉に入力し共有しながら授業展開を行った。</p>
情報	<p>○「本時の目標」と「本時の流れ」をドキュメントで毎時間提示し、板書の時間を節約。</p> <p>○Meet の画面共有を利用し、スライドのプレゼンで授業を展開。各自のタブレット表示されるので、細かい記述と説明が多い場合は、電子黒板よりも有効であると思う。</p> <p>○Web 上のタイピングソフトを活用。個人差はあるが短期間でのスキルアップに有効であった。基礎的計算力を向上させるため、Web 上の百ます計算も活用。</p>
商業	<p>○授業スライドを電子黒板に映しながら授業を行っている。しかし細かいところは Meet で提示した方が見やすい。</p> <p>○jamboard に調べ物学習の成果を発表させた。こだわったことはできないが、Meet で共有し、付箋に書かせて貼り付けさせた。</p> <p>○電子黒板で動画を見せたが、後方の生徒は遠いので見えないようであった。Meet がいいと感じた。</p> <p>○書画カメラで、電卓操作を写し、クラスルームに貼り付けた。参考にならないと言われた。</p> <p>○スライドは展開スピードが速いので生徒が大変そうであった。授業スライドはクラスルームにアップするようにしている。</p>

福祉	<ul style="list-style-type: none">○身体介護技術の授業で、タブレット及びクラスルームを活用。資料と動画を配布した。○生徒は、目の前で資料を見ることができるので、各自の視力に合わせて拡大・縮小ができ、見やすい。また、板書内容をいつでも確認することができる。○身体介護技術について、各自が見直したいところを繰り返し再生しながら介護技術の練習をすることができる。○電子黒板・タブレットを使用することで、板書時間が短くなり、テンポ良く授業ができる。＝生徒は授業に集中しやすい。○動画と文字を組み合わせることで、知識や技術のイメージが付きやすい。
----	---

5 県総合教育センター研修

今年度のセンター研修参加者は延べ8名であった。A研修3名、B研修1名、C研修8名であった。

- A研修 中堅教諭等資質向上研修・・・2名（斎藤沙織、佐藤しずか）
高等学校新任学年主任研修講座・・・1名（三浦紀子）
- B研修 情報教育推進研修講座・・・1名（伊藤公介）
- C研修 JET English Workshop・・・1名（芦原康一）
救急に役立つ応急措置・・・1名（小林瑠生）
人間関係づくりに生かす構成的エンカウンター・・・1名（小林瑠生）
新任特別支援教育コーディネーター研修会・・・1名（佐藤しずか）

(1) A研修

講座番号 A-33 「高等学校新任学年主任研修講座」

「学年経営における自校の課題とその対応」に関するレポート（I期）

【自校の課題】……生徒に人間関係を構築するスキル、社会性を身に付けさせる

- 1 対人関係の構築が苦手な生徒が多い
- 2 中学校から個別の支援計画を引き継いだ生徒への対応・指導
- 3 SNSを介したトラブルへの対応・指導

【対応】

- 1 本校は部活動の加入率が年々低下している。そこで部活動を通じて得られる人間関係や社会性を身に付けてほしいと考え、部活動加入を強く呼びかけた。その結果加入率が上がり（1年生84.1%、2年生51.9%、3年生46.0%）、部活動に所属する生徒が増えた。

また、自分の思いを言葉で伝えることが苦手で、誰かと交流することに消極的な生徒が多いことから、「総合的な探究の時間」や学校行事などでグループ活動を計画的に行い、固定された一部の人間関係に偏らないよう他者と関わり合う機会を増やしたいと考えている。

- 2 中学校で個別の支援を受けた生徒が増えてきている（1年生44名中5名）。高校入学後、落ち着いて学校生活を送っている生徒がいる一方で、相手や周りに対して配慮できずに行動・発言してしまい、トラブルを招きがちな生徒もいる。気分が高揚している時にトラブルを起こすため、学校行事など日常と異なる状況下での判断・行動を慎重にするよう指導を継続しているが、なかなか定着に至らない。

- 3 SNS上のトラブルでは、相手を必要以上に刺激あるいは攻撃するような言葉、表現を多用してお互いに煽ることで関係が悪化するパターンが多い。トラブルが起きた際には双方の状況を客観的に整理・確認し、お互いに自分が発した言葉を振り返らせ、

相手の顔が見えない分、本人の自覚以上に攻撃性が増して相手を傷つけていること、言葉を発する責任を自覚すること等について、本人・保護者に説明して理解を求めている。

講座番号 A-33 「高等学校新任学年主任研修講座Ⅰ」（Ⅰ期）

講義 望まれる学年主任像と学年主任の役割

秋田県総合教育センター スーパーアドバイザー 樋口 隆先生

〈内容〉

- ・学年主任としてのありたい姿をイメージする
- ・目の前にいる対象の生徒に合ったやり方を模索する
- ・危機管理意識をもつこと（不測の事態にどう対応するか）
- ・外部（保護者など）と話す際は共通言語を使う
（専門用語を使うことで排他的な印象を与える可能性）
- ・「共通理解」「情報共有」は情報の「解釈の共有」まで
（共通の話題≠同じ認識）

樋口先生の講義は実体験に基づいた心に迫るものであった。学年主任は「もしも」「いざ」という心構えを常に持ち、学級担任が安心して業務を行うことができるような心がけが必要だと感じた。また、保護者の心理を理解し、保護者との共通言語を用いることで相手に理解・納得してもらうことができる、などこの2ヶ月で経験したことと照らし合わせながら考えることができた。

2-1 実践発表 学年経営の実際 五城目高等学校 教育専門監 八柳 英子 先生

〈内容〉

- ・円滑な学年経営のために心がけたこと
 - (a)問題は起きるもの、問題をかくさないで対処できる体制づくり
 - (b)生徒だけでなく職員にも気を配る（担任の健康は学年の安定）
 - (c)周囲との連携、コミュニケーション
 - (d)会議の効率化…資料の事前配付

〈感想〉

八柳先生の発表の中で印象的だったのは、学校の内外との連携を大切にしている点であった。私自身はこれまで地域との繋がりが薄く、地域連携についてあまり自信がないこともあり、苦手だからと避けることなく積極的に関わらなくてはならないと感じた。また、学年通信は生徒全員が知らなくてはならない情報を共有するツールであるという考えも参考になった。

2-2 実践発表 横手城南高等学校 教諭 福原 幸子 先生

〈内容〉

- ・ 目指したこと…高校3年間を経て一人で生きていけるように(自立)、一人で学んでいけるように(自律)
- ・ やってきたこと…(1) 毎日の小さなことを大切に
(2) 人を知る(クラスを越えた学年全体の活動)
(3) 実体験に基づいて学び考える
- ・ SWOT分析…(strength・weakness・opportunity・threat)
 - ・ 生徒の変化への対応→行事を機に成長する生徒の姿

〈感想〉

福原先生の発表で印象的だったのは、楽しそうに3年間を振り返ってお話しする姿であった。様々な課題を乗り越えながらも、生徒との対話を大切にして愛情を持って接していた様子が伺えた。学校生活を経て自立・自律し、自ら進路実現に向かって成長していく過程を知り、生徒や保護者に寄り添いながらも、その先に導いていく教師のやりがいと責任の重さを感じた。

3 協議 学年経営における課題への対応

- グループ協議
- ・ 持参レポートの交換 5分
 - ・ 各校の取組の紹介 40分
 - ・ 目標達成に向けた課題の検討 20分
 - ※マンダラ法の体験 (例: 大谷翔平投手)
 - ・ 目標達成に向けた方策の検討 20分

4人1グループで各校の実態や課題を発表し、課題解決に向けた協議を行った。学校事情に共通点の多い学校同士だったため、お互いに共感を持って話し合うことができた。

特に課題としてあがったのは、生徒の人間関係構築に関する内容であった。学力にともなう言語力の不足や自信のなさから来る不安など、生徒がコミュニケーションをうまく取れないさまざまな要因を解決するためにどうしたらよいか、という話題が中心となった。

マンダラ法は今回初めて取り組んだが、タイミングを見計らって生徒たちにも取り組ませ、自分自身と向き合う機会としたい。

講座番号 A-33 「高等学校新任学年主任研修講座Ⅱ」(Ⅱ期)(令和3年6月24日)

1 〈講義・演習〉生徒指導における学年主任の役割 指導主事 細谷 林子 先生

〈内容〉

- ・ 生徒指導とは、生徒が自己実現を図るための自己指導能力の育成を目指すこと
- ・ 危機管理の「さしすせそ」=最悪を思って、慎重に、すばやく、誠意をもって、組織で対応する

- (1) いじめの理解と対応
- (2) 不登校の理解と対応…【協議】不登校になりそうな生徒への対応
- (3) 保護者との連携…【協議】仮装事例について

〈感想〉

いじめの理解について、法と社会通念の違いについて改めて考える機会となった。継続性や軽重、故意の有無は不問であり、いじめがあっても認知できていない、という事態にならないように、疑わしいもの、ちょっとした変化への気づきと認知に敏感でいなくてはならない。学年部の課題と直結するテーマでもあり、不登校も含め、保護者との関係づくりにおいて、対応の仕方、話の聴き方の重要性を日ごろから感じていることもあり、傾聴のポイントを注意して実践していきたいと感じた。

2 〈講義・演習〉学年経営と組織マネジメントの基礎 指導主事 羽深 康之 先生 ・個の頑張りだけでない組織・チームとして機能する、2人以上で組織

- (1) 学年主任の職務
- (2) 学年主任の実務
- (3) 学年組織マネジメントと学年経営

どの学校にも通用するような一般解はなく、正論が常に正解とは限らない、という言葉が印象に残った。その状況に適した「特殊解」を常に模索し、状況を理解・納得して動けるように広い視野をもって学年経営していくことができるようにしていきたいと感じた。また、現在向き合っている学年部の課題と照らし合わせながら、講義を聴くことによって、考えが整理できただけでなく、私自身の心の不安を軽くすることができた。脳の発達段階において、思春期は前頭葉が未熟で、抑制が効かず、他者の感情を読み間違えやすい、という特徴があることを知り、その段階に応じた対応の必要性を感じた。

3 〈講話〉思春期の揺れと成長を共に歩む

秋田赤十字病院心療センター 臨床心理士 丸山 麻理子先生

- 〈内容〉・脳から見た思春期の特徴 ・学校緊急支援とスクールトラウマ
・感情の社会化 ・思春期の課題 ・タイプ別基本対応 ・教師のストレス

〈感想〉トラウマを抱えている生徒への寄り添うには信頼関係の構築が根幹にあり、生徒だけでなく保護者を支えることについても考えさせられた。不安を解消する人間関係構築のためには共感する人と冷静に対応する人の両方が必要であることから、役割分担の重要性を再認識した。

〈まとめ〉教師がサンクレスジョブ（報われない仕事）ととらえられることが多いことにつ

いてのお話では、自分の仕事（教師）でうまくいく、ということについて考え、縁の下の力持ちは価値を内につくり、自分で満たすという言葉が印象に残った。当たり前の毎日を過ごせるように心を配り、準備することを大切にしたいと考えることができた。今回の講義を通じて、学年主任として、生徒・保護者・学年部職員それぞれが心の安定を図りながら学校生活を過ごせるように柔軟な心をもって対応し、私自身も心身の健康に注意しながら職務に励むことができるように成長していきたいと感じることができた、有意義な研修であった。

(2) B研修

講座番号 B-12 「情報教育推進教育講座」(令和3年9月17日)

〈挨拶〉 秋田県総合教育センター 主幹 谷内 直毅

〈講義〉 授業でICTを活用するために

秋田県総合教育センター 指導主事 鈴木 紀子

〈協議〉 ICT機器の活用状況について

秋田県総合教育センター 指導主事 鈴木 紀子

〈公開講演〉「GIGAすくーズにおける新たな学びと情報活用能力の育成」

東北学院大学 文学部 教授 稲垣 忠

〈講義〉 これからを生きていく生徒にとって、ICTは切り離して考えることはできないと感じる。教員としてのICTスキルを身につけることは必須であり、興味を持って取り組もうとしてくれる先生方が多く、職員全体で研鑽を積んでいきたいと感じた。

〈協議〉 ICT機器の活用について

各校の利用状況を聞くことができ、大変参考になった。特に、教科以外の部分で欠席確認を行っているという話を聞き、校務への活用をすることが教員一人一人がICTに触れる近道になると感じた。授業アンケートや保護者アンケートなど様々な場面での活用をしていきたい。

〈公開講座〉「GIGAスクールにおける新たな学びと情報活用能力の育成」

GIGAスクールと大きな構想の中で何をどうしたらよいのかと思っていたが、まずは自分ができる授業改善からではないかと感じた。授業改善を進める中でそれぞれの学校ができることが見えてくるのではないかを感じる。やはり、大切なのは教員がしっかりと情報収集をし、アンテナを高くして、日常的に教員も生徒も使っていくことが大切だと思う。

〈感想〉 A 本校では、タブレットや電子黒板の使用頻度は多い方であると感じる。生徒はタブレットも使いこなしているが、慣れすぎてしまい、インターネットやYouTubeなど本来の目的以外で使用している生徒もいる。生徒のアプリの使用や学校のWi-Fiの接続も授業中のみにする等の権限が学校側にあると使い方の指導もしやすくなると感じる。そういった、実践例等の取組を知りたい。

(3) C研修

講座番号C-26 人間関係づくりに生かす構成的グループエンカウンター（令和3年8月2日）

1 研修の目標

学級における人間関係づくりや、教員と児童生徒の信頼関係を築くために有効な構成的グループエンカウンターについて、体験を含む研修を通して具体的に学び、学校で実践する能力の向上を図る。

2 講義・演習 「新しい感情を体験しようー出会いを紡ぐ感情の教育ー」

講師 南かがやき教室 教育相談員 佐藤 さゆ里 先生

◆子どもたちを取り囲む「今」

変化した点

- ①対人関係力の変化、価値観の多様化
- ②家庭環境、家庭教育力の差
- ③関係性の希薄さ（濃い＝わずらわしい）
- ④規範意識、耐性、セルフコントロール力の差

変わらない点

- ①誰かに認められたい気持ち→承認欲求
 - ②自分で自分を好きだと思いたい気持ち→自己肯定感、自己有用感
- ⇒温かな感情を伴う体験の必要性

◆構成的グループエンカウンター

- ・エンカウンターとは、出会い。
かけがえのない「あなた」との出会いを通して、かけがえのない「わたし」と出会っていく。（心とこころの通い合う「私」と「あなた」の関係）

定義：ふれあい（本音とホンネの交流）と自己発見（自他の固有性・独自性・かけがえのなさの発見）を目標とし、個人の行動変容を目的としたもの。

※構成され、枠組みを与えられることで、より自己発見しやすくなる
未来につながる自己指導能力を認めてあげる。

◆構成的グループエンカウンターの諸理論

- ・実存主義…他者を傷つけないかぎりにおいて、自分のありたいようなあり方をする勇氣を持って
- ・ゲシュタルト療法…「いま、ここで」の気づき
- ・プラグマティズム…問題を解くのに役立つ知識こそ真の知識、なすことによって学ぶ（試行錯誤をためらうな）
- ・折衷主義…人を見て法を説け（感受性と柔軟性を高めておくことの大切さ）

◆SGEが学校で用いられる理由

- ①子どもたちの居場所づくりとなる
- ②集団の凝集性が高まる
- ③集団内の規範意識が高まる
- ④短時間であたたかな人間関係ができる
- ⑤自己認知の拡大がなされる
- ⑥豊かな心がはぐくまれる
- ⑦教師を育て、教師を援助する

◆SGEの展開

インストラクション（導入）→エクササイズ（課題）→シェアリング（分かち合い）

1. インストラクション

エクササイズの目的ややり方、ルールを説明する。インストラクションがSGEの効果に

影響する。

2. エクササイズ 心理的成長を促進する課題（ねらい）

①自己理解、②自己受容、③自己表現・自己主張、④感受性の促進、⑤信頼体験、⑥他者理解

3. シェアリング

エクササイズを通して、気づいたことや感じたことを、自分自身の中で／仲間とホンネで語り合うことで自己発見へ繋がる。

◆体験・演習

◎ペンネームづくり、ペンネームの展覧会（体験・演習）

呼ばれたい名前を書き、首に下げる。移動しながら、他の人のペンネームを見合う。（評価はしない）

◎君こそスターだ（体験・演習）

用紙を持って歩き、目が合った人とジャンケンをし、勝った人は負けた人にペンネームを書いてもらう。時間内にどれだけ多く勝ったかを確認するとともに、書いてもらったペンネームが一番少なかった人に焦点を当てる。書いてもらったペンネームが少なかった＝たくさんサインをした人（スター）である。ジャンケンに負けた人にも注目が集められる。

◎バースデーライン（体験・演習）

話したり書いたりすることなく、誕生日の順番に並ぶ。コミュニケーションをとることができ、誕生日が誰と近いというような話題を得られる。

◎アドジャン（体験・演習） アドジャンシート（0～9までのお題が書かれたもの）を準備しておく。グループみんなでジャンケン（指の本数の）をし、合計数を出す。一のお題で、自己開示。話すお題が決められているため、自己紹介しやすい。

◎プラスメッセージ

自分の気になっているところを紙に書き、ペアの相手に渡す。ペアの人は気になっているところについて見方を変えるとこんなことが言えると思うことを書く。自信を阻害している思考を変えたり、緩めることができる。（リフレイミング）

◎ねぎらいのイエスセット

「本当は、・・・なんだよね。」「うん」と書かれたねぎらう文章をペアで役割を分けて読み合う。その後、感じたことや気づいたことをシェアリングする。ねぎらうことの大切さと難しさ、心が開いていく感覚と出会える。

◎わたしの四面鏡、魔法の鏡

自分が思っている自分のいいところを選択肢から書き出す。その後、グループの人にも挙げてもらう。自分のことは自分が一番よく知っているわけではないことや自己発見に繋がる。※選択肢が必要なければ、自分で言葉を記入して伝えても良い。

◎私はあなたが好きです、なぜならば

グループの人から好きなところを挙げてもらう。聴く側は相手が自分の好きなところを考えたくれた時間に感謝をし、否定することなくありがたく受け取る（自分自身にI am OKを送る）。

〈感想〉カウンセリングには「育てるカウンセリング」「治すカウンセリング」があり、頑張る人にこそスペシャルな手当（治すカウンセリング）が必要であるというお話が印象的でした。話を聞いてほしいと訴えて来ることのできる生徒は、既に人と関わろうとしている、話を聞いてほしい人と関係を作ろうとしていると聞き、改めて、自分から思いを発信できない子どもたちの自己成長も促したいと感じた。また、個別では難しいことであっても、学校での集団を利用して、構成的に進めていける部分は多くあると感じた。枠組みがあることで少し頑張れる、やれそうと思う生徒もいるはずである。それぞれのアセスメントをしっかり行い、自己発見しやすい関わりをしていきたい。また、養護教諭として、保健室では「存在をまるごと受け止める」ということがしやすいため、生徒の気持ちを共有しながら、その子の持つ能力を信じ、支援していきたい。

講座番号C-17 令和3年度 救急に役立つ応急手当（令和3年6月4日）

1 研修の目標

幼児児童生徒の突然の事故や病気などに対する、正しい応急手当の方法について理解を深める。

2 講義 「応急手当の基礎」

講師 秋田大学大学院医学系研究科

救急集中治療医学講座 准教授 奥山 学 先生

応急手当について（評価→処置）

◆観察する順番 ABCDEアプローチ

A (Airway) →B (Breathing) →C (Circulation) →D (Dysfunction of CNS) →E (Exposure Environment) →A・・・

A 気道は開通しているか（声は、呼吸は）

B 呼吸数、呼吸状態（ハアハア、ゼイゼイ）

※学校では聴診までは必要ない。苦しそうかどうか。

C 橈骨動脈の触知、脈拍、顔色、汗

D 意識レベルの確認（眠そう、反応が鈍い）

E 衣服をとって全身の観察、体温測定

◆ショックの5P

Pallor 蒼白

それきみこ

（そう白、れい汗、きよ脱、顔みやく、こ吸促迫）

Perspiration 冷汗

Prostration 虚脱

Pulselessness 微弱な頻脈

Pulmonary deficiency 呼吸促迫

体に重大な損傷が起きている。又は、重篤な病態となっている時は、自覚症状と他覚症状が必ず出現する。自覚症状が強い、他覚症状の異常が大きい時は医療機関を受診する。

◆アナフィラキシー

アレルゲン等の侵入により、複数臓器に全身性アレルギー症状が惹起され、生命に危機を与え得る過敏反応のこと。

皮膚症状・呼吸器症状・循環器症状、持続する消化器症状のうち、2つ以上あれば、アナフィラキシーである。エピペン（アドレナリン筋注）がある場合はすぐに打つ。アドレナリンによりケミカルメディエーターの遊離抑制がいかにか早くできるか大事。アナフィラキシー症状がある場合は横に寝かせる（上半身を起こしていると脳血流が低下し失神することがある）。※万が一、症状が何もないうちにエピペンを打っても問題なし。脈が早くなるくらい。迷ったら打つ！

◆蜂刺傷

数時間経っても刺された箇所の症状のみで、全身症状がなければ心配することはない。数日して明らかに腫脹、発赤が強くなった、発熱などの感染兆候が見られたら抗菌薬が必要になるため受診する。

※蜂刺されて死亡するニュースがあるが、死亡する場合はスズメバチの大群に刺されたときに、毒により死亡するケースがある。スズメバチであっても1匹に刺されただけでは心配ない。

◆止血・創傷について

止血はとにかく圧迫止血を行う。「止まらない出血はない」15分しっかり圧迫すれば傷口に血小板が集まってきて一次止血できる。

創傷はまずとにかく水道水でよく洗浄する。創傷の中に菌が入り、増殖すると感染するため、異物があるときはブラシなどでゴシゴシ洗う。痛みがこらえられない場合は、医療機関で局所麻酔をしゴシゴシ洗う。

（菌が入ったまま絆創膏で塞いだり、縫合したりすると感染しやすい。縫合しない開放創であれば、徐々に菌が排出され感染しない。）

※急性創・汚染創ともに消毒することと創感染に有意差はない。医学的に消毒は全く不要！

◇医療機関を受診すべき創傷

1. 創面が開いていて縫合が必要なもの
2. しばらく圧迫止血をしても出血が止まらない
3. 汚染創（異物が深く入り込んでいる）
4. 深い創傷、刺創（内部が評価できない、異物の可能性）
5. 動物咬傷⇒必ず受診 ※犬より猫が重傷化
6. 免疫不全状態の人
7. 顔面などの創傷できれいに治したい場合

◆打撲・骨折・脱臼・捻挫にRICE

初期対応はRICE

これまではRest（安静）Ice（冷却）Compression（圧迫）Elevation（挙上）

これからはRest（安静）Immobilize（固定）Cold（冷却）Elevation（挙上）

Immobilize（固定）・・・患部を動かさないことで痛みを抑え、さらなる損傷を予防する。

RICEを20～30分続ける、その後、冷却を止め、10～15分自然にあたためる。

足首の捻挫・・・早期リハビリが効果的。

肉離れ（筋部分断裂）・・・学校で包帯を巻く必要は特になし。

骨折・・・変形、腫脹が強い場合は骨折を疑う。骨折部が動かないように固定する。

※良肢位での固定は目指さなくてもよい。痛くない形での固定を目指す。

◆頭部打撲

意識障害がある場合は救急車を呼ぶ。（名前、生年月日、ここはどこ、今日の日付、私は誰？のうち一つでも答えられなければ軽度意識障害）

◇むやみに動かしていけない場合は？

手足が動かない、しびれがあるときは頸椎損傷が疑われるため119番通報でプロに動かしてもらおう。

◆脳震盪

脳震盪が疑われたら病院へ。スポーツの場合、完全に回復したと証明されるまで競技に戻ってはいけない。24～48時間の休息をとる（読書やゲーム、画像をみることも×）。

セカンドインパクト症候群に注意！

・・・脳震盪から完全に回復する前に、2回目の頭部外傷を受けることで、脳浮腫が進行し、死亡もしくは高度な脳機能障害に至ること。

◆てんかん・けいれん

危険なものから遠ざけ、呼吸状態が悪いときは気道確保を行う。けいれんが5分以上続くときは119番通報。（ほとんどが数分でおさまる）押さえつけたり、口にもものを入れたりしてはいけない。

※けいれんが起こったときの様子を観察しておく。

◆熱中症

熱中症とは暑熱環境における身体適応の障害によって起こる状態の総称である。「暑熱による諸症状を呈するもの」のうちで、他の原因疾患を除外したものを熱中症と診断する。

◇医療機関受診の目安

1. 意識が悪い
2. 水分が摂れない
3. 症状が改善しない

◆COVID-19

無症候でもウイルスを持っている人がいる点が新型コロナウイルス感染症の問題とされるところ。（真の無症候者は約20%と推定されている。）感染者の中にスーパースプレッターがいるとクラスターが発生してしまう。クラスターが発生したら、その集団以外に感染を拡げないようにするしかない。学校の対策は、保菌者がいない前提なのかいる前提なのかで変わってくるところもあるが、どのウイルスも感染対策は一緒。ウイルスが目や鼻、口から粘膜に侵入しないようにすればよい。

◇予防策

- ・頻回な手指衛生

（石けん・流水での手洗い、60%以上のアルコールでの消毒）

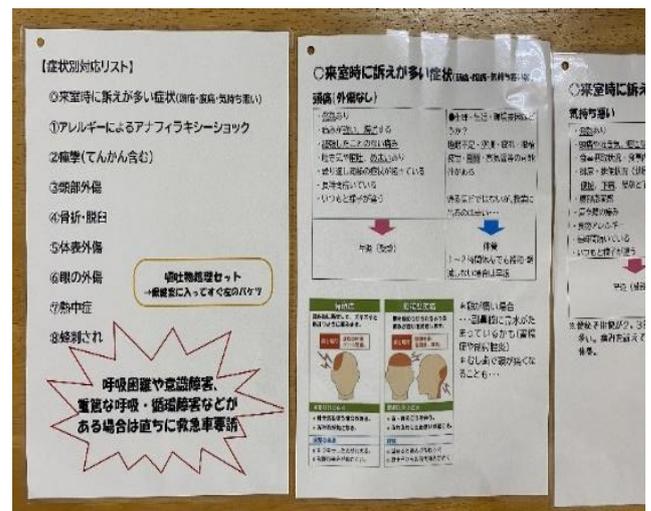
※飛沫があると思われる場所やたくさんの人が触れる場所を触った手で目、口に触らない。触れる前には消毒・手洗いをしっかり行う。（食事前など）

- ・物理的距離の確保（約2m）
- ・咳エチケット
- ・マスク着用

- ・ 共有物の消毒（多くの人が使うところをメインに消毒）
- ・ 人混み、密接した環境、換気の悪い閉鎖された空間を避ける

(感想)

「マニュアルの根本・理論を理解できれば応用できる」という話から始まり、日々の応急手当の裏付けを学ぶことができた。また、処置の前の評価・観察がしっかりとできていれば、処置もしやすくなるため、改めて問診や視診、バイタル測定等の確認の大切さを感じた。保健室で応急手当をする際は保健指導として、再発防止について自分での手当の仕方を伝えるようにしているが、今回の講義でより生かせる知識を得ることができた。創傷ができれば消毒液に絆創膏、打撲や捻挫のときは湿布、頭が痛いときは冷えシートと思っている生徒がまだまだたくさんいるため、根拠を示しながら、情報発信や指導をしていきたい。



1 研修の目標

英語によるディスカッション等の体験を通して、英語科の授業を担当する教員自身の英語運用能力の向上を図る。

2 研修の内容

<演習> スキルトレーニング & コミュニケーションプラクティス

各種活動は、考査前後の復習としての可能である。ここでの活動はゲーム的な要素を取り込んだものである。その目的は、授業の潤滑油として、生徒が英語を話しやすい雰囲気作りにつなげていくことにある。活動実施にあたっては、4技能を活用していくことは言うまでもないが、実際に生徒が自身の考えを、自身の言葉で伝えていくことで有効と考えられる。具体的な活動の実例として、Jeopardy、Criss Cross、Ring Of Fire、Hot Potato 等の活動が実践を交えて紹介された。さらに、ペアワークやグループワークを通して、お互いの英語コミュニケーション量を増やすことも可能である。Keep Talking、Guess the Words、Welcome to Japan、Make the story、等の活動も実践しながら、紹介された

また、実際の授業における JTE と ALT の長所と短所を確認し、指導計画を組む上で両者のやりとりを十分持つことが大切である。これにより、指導目標や授業での役割を共有し、よりよい活動を生徒に提供することができる。特に、JTE は生徒と ALT をつなぐ大切な架け橋であることも留意し、平素の授業計画、および実践に臨むべきである。

3 感想

午前中は総合教育センター所属のALTによる講義だった。改めて共同で授業を作るという観点から普段のコミュニケーションを大切にし、授業計画のディスカッションでは率直に話し合うことの大切さを確認することができた。午後はスピーキングスキルにウェイトを置いた内容だった。いくつかの実践例を紹介いただき、さらに体験することもできた。率直に楽しく、有意義な内容だった。早速自分の授業で積極的に実践していきたい。こうした機会を基に授業改善をこれまで以上に図りたい。

6 特別支援教育 新任特別支援教育コーディネーター研修会

研修レポート

①特別支援教育コーディネーターとして実際に行った役割について

- ・特別支援教育の年間計画作成
- ・特別な支援が必要な生徒の把握、職員会議で生徒情報を周知し共通理解を図る（入学生の中学校からの申し送り、個別の支援計画・指導計画等）
- ・外部機関の活用検討（必要性、時期等）
- ・美郷 SEN ネットへの出席
（特別な支援が必要な生徒に関して地域の教育機関との情報交換）
- ・個別の指導計画の作成
- ・高等学校特別支援隊の要請

②特別支援教育に係る校内支援体制の現状と課題について

《現状》

- ・特別支援コーディネーターは教頭、養護教諭、教諭2名（2学年、3学年）
- ・中学校からの個別の指導計画と支援計画を全職員で共有している

《課題》

- ・各学年に特別支援コーディネーターがいない。
- ・教員数が少なく、また分掌を多数掛け持ちしている教員が多いため、特別支援体制に課題がある。そのため、個別の指導計画、支援計画の作成について担任教諭など特定の教員に負担がかかる。

③自校（園）の課題を解決するために特別支援教育コーディネーターとして実際に行ったことや今後取り組みたいことについて

- ・高等学校特別支援隊の要請（新型コロナウイルス感染症予防のため訪問延期）
- ・Google アプリを使用し、生徒情報を共有しやすくしたい。
- ・生徒の特性を入学後、早期に捉えられるよう、SEN チェックリスト等を行い、その結果も踏まえて、生徒の自己実現に向け組織的に支援していきたい。

7 「Q-U分析会」

生徒指導部・研修部

(1) なぜ「Q-U」？

学校集団の発達について

例年、「Q-Uアンケート」を実施しているが、ここ数年、「Q-Uアンケート」を有効に活用しようという職員からのニーズが出て来ていた。アンケートから見える人間関係や学校生活で辛い思いをしている生徒に適切な支援施すという意味から、「Q-U」アンケートを効果的に機能させるために今年度実施する至った。

・実施日時：8月23日（月）放課後

- (1) 講師による「Q-Uアンケート」についての説明
講師：男鹿海洋工業高校 成田 実 先生
- (2) 「Q-U」プラット図を活用したクラス分析
- (3) 質疑応答

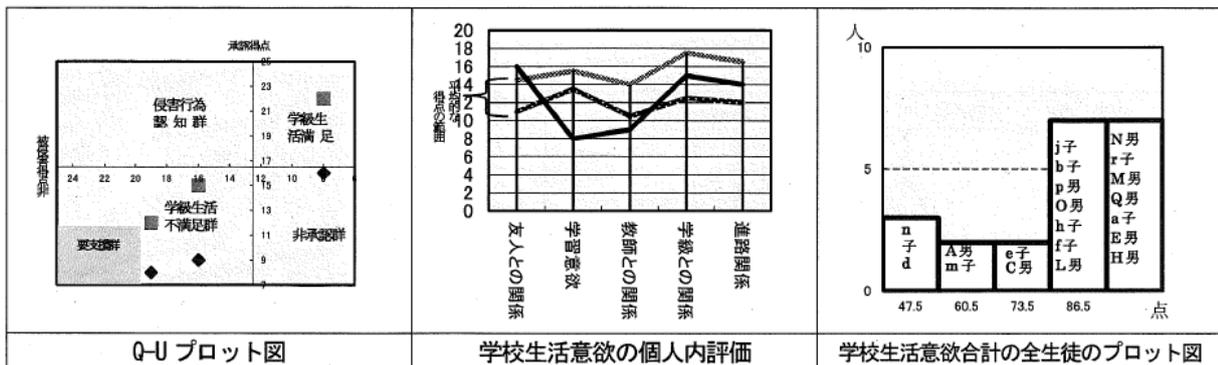
(2) 「hyper-QU」から何がわかるの？

「Q-U」プラット図から分かること

被侵害得点（ヨコ軸）：トラブルやいじめなどの不安がなくリラックスできているか。

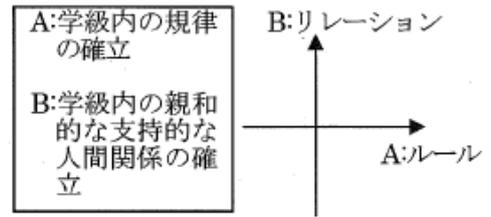
承認得点（タテ軸）：自分が級友から受け入れられており考え方や感情が大切にされていると感じているか。

「hyper-QU」は、ソーシャルスキルの集計結果を、「配慮」と「かかわり」の2つの軸から捉えたグラフが出力されている。それぞれの軸が30°程度傾いた平面上にプロットされスキルの関わりがわかりやすくなっている。



(3) 望ましい学級集団に成立している4つの要素

- I 集団内の起立、共有された行動様式
- II 集団内の子ども同士の良い人間関係、役割交流だけでなく、感情交流や内面的なかかわりを含んだ神話的な人間関係
- III 一人一人の子どもが学習や学級活動に意欲的に取り組もうとする意欲と行動する習慣、同時に、子ども同士で学び合う姿勢と行動する習慣
- IV 集団内に、子どもたちの中から自主的に活動しようとする意欲、行動するシステム



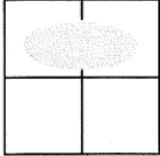
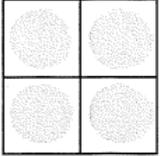
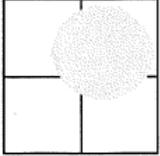
※ Q-Uのプロット図

※ IとIIが集団を規律する最低限の必要条件となる。

(4) 「Q-U」プラット図の見方

- たて型：厳しめの先生の学級に多い分布のしかた。非承認群にいる子供は、先生の尺度に合わないため、認められ感が少ないと考える。先生が厳しいため、ルールが守られているクラスであり、子ども同士のトラブルは少なく、侵害行為を認知する生徒が少ないと思われる。または、満足群にいる生徒に対してしっくりこない感じがあれば、一部の子供が大きな力を発揮しクラスを動かしているかもしれない。学級の尺度が教師ではなく力のある一部の生徒であるかもしれない。
- よこ型：優しく一人一人対応してくれる先生の学級に多い分布のしかた。このクラスは多くの子供が勝手に行動しているため、子ども同士のトラブルが多く見られる。先生が優しく個別対応するがためにルールを破っても厳しく怒られることもなく、不公平感をもつ子どももいる。先生が個別に対応してくれるため認められ感は低くないと思われるが、子どもと教師の2者関係の強い学級であり、子ども同士の関係は薄いかもしれない。
- 拡散型：クラスをまとめたりせず、放任している先生の学級に多い分布のしかた。一部の子供が自由に活動し、いじめ・仲間はずれ・嫌がらせ、小グループ間で起きていることも考えられる。
- 広がりのある満足型：
比較的良好にクラスを引っ張っている先生、又は、クラスのリーダーがみんなをよくまとめている学級の分布のしかた。新学期そうそう、みんながやる気満々のときに、このような分布になっていることもある。逆に、学年末でまとまり感がでてきたクラスはこんな感じの分布になる。

教師のリーダーシップの型と QU (プロット図)

教師	Pm 型	pM 型	pm 型	PM 型
学級	 <p>たて型 かたさの見られる学級</p>	 <p>よこ型 ゆるみが見られる学級</p>	 <p>拡散型 ばらばらな学級</p>	 <p>ひろがりのある満足型 弱いまとまりのある学級</p>

(5) 学級のリーダーの育て方

I リーダーが育つ土壌をつくる

→ 学級の状態が悪いと、リーダーになってもやっていけない。フォロワーも同時に育てないと、リーダーになってもやっていけない。

II リーダー役の生徒の心理的な支え

→ リーダー生徒が、ピンチの時には教師が補助自我となり支える。リーダーを積極的に支持する生徒の育成。

III 責任感と効力感

→ 仕事をまかせて、承認してやる（過剰に褒める必要はないので、認めてやる感じで）

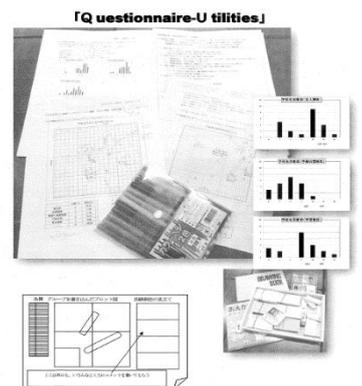
IV リーダーシップよりもメンバーシップを育てる

→ みんながリーダーに強力するよう学級の雰囲気作りが最優先。リーダーが育つ土壌をつくる。

いろんな場面で、それぞれのリーダーが出てくるように、多くの生徒が活躍できるようにチャンスをつくる必要がある。

(6) 研修を終えて（生徒指導部・研修部まとめ）

クラスのプロット図から「たて型」、「よこ型」、「拡散型」、「ひろがりのある満足型」のどれが当てはまるのか理解し、図内の集団と離れた動きをする生徒を把握し、その生徒が居心地の良い居場所を学級活動の中で見つけられるような支援ができることを、確認できた。また、分析会を開くことで、管理職を含めた全職員が生徒の人間関係を把握できたという意味で、人間関係のトラブルが多い本校においては、重要な取組であるとあらためて感じた。



8 総合的な探究の時間の取組

(1) 1 学年総合的な探究の時間の取組

学年主任 三浦紀子

◆ 1 年生の活動の目的と工夫

「地域と繋がる活動を通して働くことの意義を知る」ことを目的として実施した。地域の「人・もの・こと」と関わることで、生徒が身近な地域に関わる上での自分の力や役割を発見できるように、また、地域で働く人が何を考え仕事をしているのか学習できるように活動内容を工夫した。また、本年度から生徒に一人一台タブレットが配布されたことを受け、ICT機器を活用し、調べ学習や意見をまとめる事前、事後活動や、生徒たちの意見交流を促すためにグループ学習や意見交換する時間を意図的に設けた。

◇ オリエンテーション（4月初旬）

グループ学習の準備活動として、学年部へのインタビューを行い、趣味や興味について質問した。生徒のグループでは、聞き取り係、まとめ係、質問を考える係など役割分担を行い、協力し合いながら活動を行った。

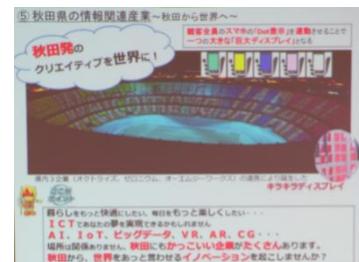
◆ 仕事を理解するための行事

◇ 学科・コースガイダンス（5月14日）

教務主任やコース関係職員から、普通科の各コースと福祉科についてのカリキュラムや特徴について詳しく説明して頂いた。

◇ ふるさと企業紹介（11月10日）

- ・場 所 本校視聴覚室
- ・説明者 六郷高校就職支援員 中村 静男 氏
- ・内 容 秋田県の産業構造や特徴等、地域のきらりと光る企業紹介の説明。
 - ①株式会社タニタ秋田
 - ②ナガイ白衣工業株式会社
 - ③株式会社ヤマダフーズ
 - ④東電化工業株式会社
 - ⑤アネスト岩田株式会社
 - ⑥株式会社タカヤナギ



(プレゼン資料より↑)

◇ 進路ガイダンス（11月11日）

「職業についての理解を深め、進路選択に必要な知識を身につける。就職の現状と就職に向けて身につけるべき能力を理解する」を目的とし、オンラインで各学校毎にブースを設け実施した。生徒は50分毎に2つのブースで説明を受けた。



(短期大学) 幼児教育、栄養関連

(専門学校) 介護福祉、リハビリ、調理・製菓、理容師・美容師、IT・情報関連、サービス・販売、デザイン・webデザイン関連、マンガ・アニメ関連、自動車関連

◇ 企業見学 (11月12日)

1組は①②③④、2組は②①④③の順で見学

- ① (株) タニタ秋田 (大仙市堀見内)
- ② (株) フルヤモールド (大仙市角間川)
- ③ アネスト岩田 (株) (大仙市藤木)
- ④ (株) プレステージインターナショナル (横手市柳田)



◇ 生徒の感想 (抜粋)

・製造の現場の仕事を理解出来た。地元にも世界で有数のシェアを誇る企業があることに驚いた。・自分の進路に向けていろいろな職場を知ることができて良かった。今後もこのような講話を実施してほしい。・自分の将来について真剣に考えるきっかけになった。自分の知っている会社、知らない会社について詳しく知ることができた。・地元の企業なのに、知らないことばかりで、進路学習の難しさを知った。県外への就職を希望しているが、企業を理解する判断材料になったと思う。等

◇ タブレットを活用してのまとめ (抜粋)

令和3年度 進路学習 まとめ

1年 組 組員名 _____

●記録した用紙を見ながら、内容をまとめましょう。

1. ふるさと企業紹介 (11/10) 講師: 秋田県庁 (秋田県庁職員)

●秋田県は人口減少の激化率、労働力不足など、県外へ就職する人が多いです。その理由として訪ねました。

●県産品の紹介
自動車、航空機、鉄工業用車、医療福祉機器、情報などの産業があります。製造業は日本で1位・2位のものが多くあります。県は約3万個の部品で作られています。

●株式会社タニタ秋田
全国のタニタグループの中で唯一の生産工場です。主に計りを製造している会社です。事務用体重計製造や料理用の計量器、小型医療機器などを製造しています。

●ナガイ白粉工業株式会社
医療用白衣等の製造販売及び物流をしている会社です。医療用白衣の他に手術帽、介護用ウェアを製造しています。社内で手洗い実演しており社員さんの声がよくも良い会社です。

●株式会社ヤマダフーズ
納豆・豆腐の製造販売をしている会社です。業務用納豆は業界No.1の売り上げです。

●自分の場で考えること・失敗を恐れぬこと・自分の人生は自分で作る

●東北工業株式会社
プリント基板やLEDへの組立、めっきを主に行っている会社です。環境を大切にすることを重視しており、原料・部材、ゴミ分別などを積極的に取り入れています。

3. 職場見学 (11/12)
◇見学した社について、説明内容や気づいたことをまとめましょう。

(1) 企業名: フルヤモールド
フルヤモールドには六郷高校の先輩がたくさん働いています。プラスチックの原料であるペレットは300種類もあります。高い性能や低い性能、温度もそれぞれです。1時間に2000個、一日に1万個は検査します。ロボットでも人の目で検査をしています。

(2) 企業名: (株)タニタ秋田
主に体重計などの計るものを作っています。小型の計りから業務用の計りまで大きさはさまざまです。ロボットを導入しています。そのロボットはタニタさんが自分で開発したものです。タニタ秋田は女性が働きやすく、休日は休みで、若い人も働きやすく、離職率がかなり低いのも特徴です。

(3) 企業名: プレステージインターナショナル
社内が三葉のクローバーの形をしています。社員はカードを持っていてセキュリティがしっかりしており、個人情報流出の防止に力を入れています。主に仕事はコールセンターで電話対応をしています。女性がとても働きやすく、保育園が社内の中にあります。

(4) 企業名: アネスト岩田
グローバル企業で海外にもたくさん会社があります。塗装機器・液圧機器を生産しています。スプレーガンから自動車塗装まで幅広く種類がたくさんあります。男性がたくさん働いています。完全週休二日制をとっていて、健康管理に力を入れています。

4. まとめ 今回の進路学習を行い、考えたことやこれから頑張りたいことなどを文章にまとめましょう (200字以内)。

自分が希望している進路先を見学、学びました。初めて知ることだらけで本当に勉強になりました。また、秋田県は工業が有名だということを知りました。自分の知らない職業を見学、学ぶことができたのでよかったです。健康増進や好奇心、仕事への意欲はどの仕事にも共通だと思つて今のうちからしっかりしていきたいです。職場見学、オンラインでの講演会など貴重な体験をすることができ、良かったです。とても良い経験をする事ができました。

◇ 成果と課題

秋田県の人口減や新規学卒者の県内定着と離職率についての現状とともに、秋田県内に今後成長が期待できる産業や企業がたくさんあることを知る良い機会となった。秋田県内の重点産業、特に自動車、航空機、新エネルギー、医療福祉機器、情報の成長5分野について詳しく説明いただいた。これまで企業名を聞いたことがあってもあまり知らなかった企業が多くあり、今後の一層の発展の可能性についても学ぶことができた。「ふるさと企業説明会」の2日後に「職場見学」を計画できた

ことは効果的であった。特に「地域のきらりと光る企業紹介」として紹介いただいた株式会社タニタ秋田とアネスト岩田株式会社は、実際見学した企業である。さらに、高校生の求人があり、本校卒業生も近年就職している企業もあり、そのような企業を1年生の段階から知ることができたことは良かったと考える。

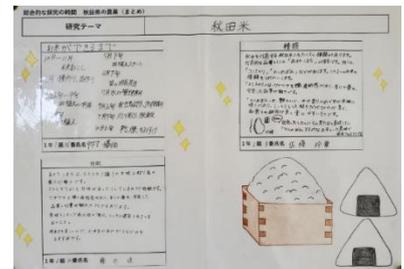
進学希望の生徒や県外就職希望の生徒も、県内の企業を学んだうえで進路を選択することが必要である。また、進学先を卒業後に秋田に帰ることも考えられる。進路希望に関わりなく、全員がこのような学びの機会を得られたことは、キャリア形成にとって貴重であったと考える。

◆ 地域の主たる産業（農業）を理解する行事

◇ 秋田県の農業を調べる活動（5月21日）

〈課題〉タブレットを利用して、以下の用語を調べ、用紙にまとめる。その後はまとめた用紙をラミネートし廊下に掲示（右写真）。

- ・秋田米、秋田牛、秋田豚、美郷ブランド10品目、美郷町振興野菜、美郷町生菓の里構想、その他（秋田県特有の農産物）



◇ 農業体験（9月10日）参加人数40名

- ・午前：美郷町内（六郷、千畑、仙南 各地区）の農家にて、ネギ収穫作業、ブドウ・ブルーベリー・野菜の管理作業を実施。
- ・午後：教室で感想記入。

※ 道具類 長靴、軍手、除菌ウェットシート、虫除けスプレー、不織布マスク



◇ スライド発表（11月9日）

タブレットで、体験内容、感想等をプレゼンテーション資料にまとめ発表した。発表者以外は、発表者の内容を記入しまとめた。



◇ 農家さんへの質問（抜粋）

- Q 農家をやろうとしたきっかけは → 農家の家に生まれ、農家を継ぐため。
- Q 大切にしていること → 食べ物を大切にすること。
- Q 農家で一番大変なことは → 炎天下での作業は大変。草むしり。
- Q 一日の作業時間はどのくらいか → 朝4時起き、約10時間行う。
涼しい時間帯など作業時間を工夫している。
- Q どの位のブドウが収穫されるか → 1500袋収穫する。
昨年度の雪の被害で収穫数が減少しそうだ。
- Q 管理で大変なこと → 虫や動物からの被害。薬を使わないようにする。等

◇ 生徒の感想（抜粋）

- ・初めて知ることばかりで新鮮でした。農家さんの苦労や喜びを知ることができて良かったです。ブドウを育てる上で様々な工夫があることを知りました。実際に果物の管理はできなかつたけど、細かい作業も大切だということを改めて感じた。
- ・とても楽しい時間でした。自分でも農業をしていきたいです。命の大切さがわかりました。農業は誰にでもできると思っていたのですが、管理能力や定量的にものを考えなければならないので、とても難しい仕事なんだと思いました。
- ・興味が湧いたので色々調べたい。農家さんは、命を育てて、それをお客さんに美味しく食べさせて稼ぐというのが、農家をする上で基本だと思います。また、いま高校で習っている数学などの知識なども大切だと思いました。

◇ 成果と課題

地域の基幹産業である農業を体験することで、ふるさとを見つめなおし、自然や農家との触れあいの中で働くことの意義を知る目的で実施した。参加生徒の感想から、この目的は概ね達成できたと考え。「食」を支えるためにはどのような作業や大変さが伴うのか、地域の方と触れることで自分たちの生活がそれによって支えられていることに気づき、地域の仕事やそれに従事することのやりがい・思いについて考えを深めることができた。生徒にとって実感をもって理解する良い機会となった。また、地元で生産されている果樹や野菜を知り、働くことの意義についても考える機会を得ることができた。

◆ ボランティア的行事

◇校内清掃ボランティア（11月11日）

（第1理科室掃除の様子 →）



年度当初、地域清掃ボランティアを予定していたが、雨天の為、校内清掃ボランティアに切り替えて実施した。日頃、行わない場所の清掃を2時間かけて学年全員で行った。トイレ、理科準備室・理科室、体育館等を実施。勉強では目立たない生徒が一生懸命に仕事をこなし、意外な一面を見ることができた。

◆ 1年間のまとめ

情報社会においては、自分に本当に必要な情報を選択し、主体的に自らの考えを築き上げていく力が必要となる。第1学年では、聞き方、話し方、インタビューの仕方、インターネットを活用したプレゼンテーション資料の作り方などのスキルを身に付けることと、自分のキャリア形成に必要な知識を身に付けられるよう、体験活動を通して育んできた。

今後は、自らの生き方と結び付け、自らの生き方と社会のつながりに気付きを促し、社会に参画しようとする態度を養っていきたいと考えている。

そのためには、これからの社会を考え、具体的に自分の考えや思いを整理し、まとめることで、地域や社会における問題や課題を発見していく活動が求められる。また、自分は考えなかった違う角度からの視点を知ることができたり、仲間と協働して取り組むことで解決できたりすることの経験から、気付きを促し、自分の考えを深めさせたい。

地域題材を取り扱うことは、必然性や目的意識を高める事につながる。上手く地域題材を盛り込み、工夫を施しながら、生徒の社会に参画する態度を養っていきたい。

(2) 令和3年度「2年総合的な探究の時間」における授業実践

2年部主任 檜岡 明日美

【学校紹介】

本校は、秋田県南部に位置する仙北郡美郷町にあり、普通科（2年次よりビジネスコース・教養コース）・福祉科からなる学校である。平成31年よりコミュニティ・スクールとして、地域との連携を図り、生徒にとって魅力ある学習の機会と、その内容の精選を図りながら、様々な学習活動に取り組んでいる。

1 課題設定の理由

1年次の総合的な探究の時間において、学校所在地である美郷町の歴史や文化、産業について教養を深めるため講演や、施設見学、体験学習を実施し、学習のまとめとして校内発表を行った。1年間の振り返りとして行ったアンケートに以下のような生徒の感想が見られた。

【1年間の探究学習を振り返り、どんな力が身に付きましたか。】

- ・周りをよく見る力や、観察力が付いた。
- ・原稿を作る時、自分が思ったことをたくさん言葉にできた。
- ・考え、言葉にする力が身に付いたこと。
- ・必要な情報を探し出し、使いたい情報をまとめる力。
- ・1つのことについて、様々な視点から調べるようになった。
- ・人の前で発表する力。
- ・聞く人の立場になって考える力。
- ・みんなと協力し自分の納得できる形に仕上げる力。
- ・グループ内で意見を出し合えるようになった。
- ・友達の意見を取り入れることの大切さに気がついた。
- ・表やグラフ作成の力。
- ・物事を効率的に進める力。
- ・資料を作成する過程で、国語力が身に付き、パソコンも使用したので、タイピングが以前よりも早くなった。



【探究活動のどんなところが楽しいですか。】

- ・自分の知らないことを知ることができること。
- ・文化や歴史、建造物等に直接触れ、体験しながら知ることができること。
- ・グループの人と話し合いながら、今持っている知識や技術を出し合って作業できること。
- ・自分達で行動して、自分達だけで情報収集し、考えられること。
- ・地域の人と交流できたこと。
- ・グループで協力し、その地域の特色や、良い所を見つけること。
- ・周りの人と協力することで仲良くなるきっかけができ、新しい友達もできたこと。
- ・実際に自分の目で見ることができ、様々な所から情報を探せること。
- ・オリジナルの発表スライドを作成できること。
- ・より深い探究をすることで、今まで見えていなかったものや、発見をすることができること。
- ・グループの人と楽しみながら、自分達のペースで作業を進めることができること。

以上のように生徒の感想から、探究活動に対して意欲的な姿勢が感じられた。現在、本校に在籍している生徒の約半数は、美郷町外の出身者であり、美郷町の歴史や文化、産業について知ることは生徒にとって新たな気づきや発見に繋がり、新鮮な体験活動になった。このことから、2年次から始まる各コースの専門科目における課題学習の充実に繋げていくことができるのではないかと考え、学年部と教科担当で協議し、1、2、3年生と各コースの特色を活かした学習に繋がるよう総合的な探究の年間計画を立案した。以前は、コース毎の専門科目の授業で「美郷町」をテーマに設定し、生徒の能動的な学習活動を期待したものの、生徒自身が地域の実情を把握できていないため、課題に対して柔軟な発想やアイデアや、活発な意見交換が乏しく、町の実態を把握するための調査にかなりの時間を費やし、発展学習の内容を充実させることが難しかった。しかし、総合的な探究の時間と、専門科目の授業内容を横断的に計画することで、課題学習の充実に繋げていくことが可能になると考えた。

2 実施計画

- (1) これまでの活動と課題の把握
- (2) 実践活動Ⅰ
- (3) 外部講師による講座と校外学習
- (4) 実践活動Ⅱ
- (5) 評価と今後の課題

3 実施状況

- (1) これまでの活動と課題の把握

日 時	活 動	内 容
R2. 4. 10 (金)	総合的な探究の時間アンケート	中学校までの個々の取り組みや、高校で体験してみたいことを調査・集計
R2. 6. 5 (金)	総合的な探究の時間ガイダンス	これからの取り組みについて確認 次回地域調査について打合せ
R2. 6. 12 (金)	六郷高校周辺の散策・調査	①清水 ②お寺 ③商店街 コースに分かれて地域調査を実施
R2. 6. 23 (火)	六郷商店街講演	①小西合名株式会社 代表取締役 小西 正一郎 様 演題「六郷商店街の現状と今後の展望について」 ②美郷町観光情報センター 高橋 勇治 様 演題「六郷清水の見所と歴史について」 講演を通して地域の現状について理解を深めた
R2. 7. 3 (金) ～ R2. 8. 25 (火)	各クラス・コースに分かれて 模造紙にまとめ	各クラス①清水 ②お寺 ③商店街 コースに分かれて調べたことや新たな発見、町の課題をまとめ、8月28日(金)のポスター発表に向けて準備
R2. 9. 1 (火)	地域調査	①側清水 ②美郷町歴史民俗資料館 ③坂本東嶽邸の見学
R2. 9. 4 (金)	総合的な探究の時間中間発表	地域学習を通して見えてきた町の良さや、それをPR するためのアイデア、課題をまとめ発表

日 時	活 動	内 容
R2. 10. 23 (金)	あきた県庁出前講座	秋田県庁地域づくり推進課 斎藤史佳 様 テーマ「地域における「元気ムラ」活動について ～地域コミュニティの維持・活性化に向けて」
R2. 11. 10 (火)	ふるさと企業紹介	①秋田県の産業構造や特徴等についての解説 ②秋田県内の代表的な企業の紹介 ③該当地域のキラリ光る企業の紹介
R2. 11. 12 (木)	職場見学	各企業の若手社員の方々から、「秋田で働くこと の意義」「秋田の企業の魅力」について講話
R3. 1. 19 (火)	天筆製作ボランティア	美郷町の小正月行事かまくらに合わせ開催される 天筆（短冊）を製作
R3. 1. 21 (木)	美郷町六郷地区除排雪ボランティア	美郷町社会福祉協議会主催による美郷町内の一斉 除排雪活動にボランティアとして参加
R3. 2. 19 (金)	地域学習発表会	今年度の総合的な探究の時間のまとめ

【課 題】

- ① まとめの内容を発表する時の表現力や、言葉の選び方が適切ではない。
- ② グループ内の意見交換や協議が不十分。
- ③③ 五感を使った体験の不足。

(2) 実践活動 I

昨年度の成果と課題を踏まえ、今年度は美郷町の主力産業である「農業」をテーマに設定し、学校の旧花壇を利用した農作物の栽培に挑戦。

時 期	ビジネスコース	教養コース
4 月	地元の産業（農業）を学ぶ・花壇の整備（2コース合同）	
5 月	新聞づくり講習会① 「新聞づくりの基礎を学ぶ」（講師）秋田魁新 報社	種まき・定植
	秋田県立農業科学館の見学（2コース合同）	
6 月	農作業の手伝い・取材	手入れ
	新聞づくり～新聞全体の構成検討～	手入れ
7 月	手入れ・収穫・取材・調理・試食	手入れ・収穫・調理・試食 花壇の片付け・整備
8 月	パソコンを使用して、取材記事を編集	
9～10月	新聞づくり・新聞づくりディスカッション	
11月	新聞づくり講習会② 「新聞の構成・記事の書き方について」 （講師）秋田魁新報社	
12～2月	新聞づくり	報告会に向けて準備
3 月	校内新聞展示発表会	報告会

『畑日記』 4月23日(金)

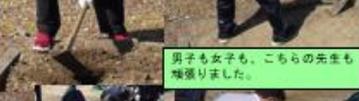
今日は、クワと移植ベラをつかって土を掘り返し、石を取り除く作業をしました。クワを使うのは初めてということで、手慣れた先生の指導のもと・・・



掘返



いざ、作業!!



男子も女子も、こちらの先生も頑張りました。



花壇は現在ここまでキレイになりました。今のところ作業は順調に進んでいます。



今日は、天気が良く少し汗ばむ陽気でした。作業を早めに切り上げて、学校の敷地内にある木の木を眺めながら一息つきました。



一回の『畑日記』をお楽しみに～

『畑日記』 5月14日(金)

現在の畑の様子です。今日は、午前中に雨が降っていたため、畑作業は中止となりました。

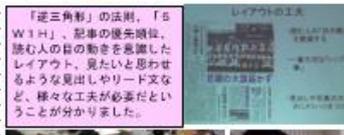


来週は、天候に恵まれ作業が進みますように・・・。そろそろ種をまく準備もしたいところです。

というわけで、今日の『畑日記』では、2年1組(ビジネスコース)の新開づくり講習会の様子を紹介します。2年1組では、畑作業の様子を新聞にしたいと考えています。本日、秋田県新報社の工藤さんを講師にお招きし、新聞づくりの基礎を教えてくださいました。



工藤さんの言葉で一番心に残ったのが、「伝えると伝えるは全然違う」ということです。相手に正確に分かりやすく、ポイントとらえ伝えることが大事だと思います。また、「。」の位置一つで文章の意味も違ってくることを再確認しました。



「逆三角形」の法則、「5W1H」、記事の優先順位、読者の目の動きを考慮したレイアウト、見たいと思わせるような見出しやリード文など、様々な工夫が必要だということが分かりました。

取材をするときはコミュニケーション能力が大切だということがよく分かりました。取材に限らず、色々な場面でコミュニケーションは大事になっていくと思うので、積極的に取り組んでいきたいと思いました。



記事を読んで、見出しの付け方に熱中中。

1人の先輩が太田・宮・木が撮れた後を見て、どのような撮影を説明します。他の生徒はそれを聞きながら積極的に指さします。どれだけ正確に伝えられることができるか!

今日の講習会で学んだことを生かして、みんなに分かりやすく、たくさんの人に読んでもらえるような新聞をつくりたいです。

一回の『畑日記』をお楽しみに～

『畑日記』 5月25日(火)

久しぶりの畑作業です。今日は、肥料を蒔いてマルチ敷地の準備をしました。マルチ敷地とシートを用いることで、雑草を防ぎ、収穫を早めることができる敷地方法です。



クワを使って土と肥料を混ぜるようにしながら蒔いていきました。



シート張り中...



天候が不安定でなかなか作業ができます。また、大生連休もありましたので、約1か月ぶりの畑作業となりました。

少しずつクワも上手に使えるようになってきましたが、形を整えるのは少し難しかったです。先輩方にも手伝ってもらいながら、男と今日の目標は達成です。どのマルチ敷地の準備ができて良かったと思います。次の作業も楽しみです!!

一回の『畑日記』をお楽しみに～

『畑日記』 6月5日(火)

夏休みが始まりました。7月27日(火)の朝に収穫したキュウリです。昼寝が続き、キュウリたちも「毎日あっちなー」と言いながらこんなに大きくなってしまいました。



収穫のタイミング失敗です!! 当たり前のことですが、種を植えた後も様子を見ながら、手間を惜みず育てなければなりません。そうでないと、この間のようにカラスに食べられたり、大きくなりすぎたりしてしまいます。

8月2日(月)畑の様子です。キュウリはもろんのこと、トマトも色づき始めました。そして、枝豆もたくさん実をつけています。



キュウリはどんどん育っていて、もはや収穫するのが大変なくらいです。種を蒔いたタイミングはキュウリもトマトも株高も同じですが、ミニトマトは実つのにかなり時間がかかるようです。でも、可愛らしい実をつけ、「あっ、トマトだ」とわかるようになってきました。愛着もわいてきます。



生徒たちの卒業は盛夏です。夏休みが明けたら・・・楽しみです!!

一回の『畑日記』をお楽しみに～

(3) 外部講師による講座と校外学習

【秋田魁新報社による新聞講習会・情報発信】

第3者に有益な情報を発信するための情報の集め方、編集の仕方、興味・関心のもてる記事の書き方を学ぶ。総合的な探究の時間内で、畑作りから農作物の栽培までを行い、活動の様子取材（撮影・記録）し新聞にまとめる。学校ホームページで『畑日記』として情報発信。



【農業科学館見学】

総合的な探究の時間のテーマ「地元の産業を学ぶ」の一環として、農業の歴史や品種改良について知見を広める。

①昔の農業と現代農業の違い

- ・昭和20年代と現代の農業技術の変遷と機械化の歴史について映像比較を通じた学習

②稲の品種改良

- ・品種改良の目的ややり方、現在の主力品種の誕生までの流れについて実物を前にした講話
- ・あきたこまちが誕生するまでとサキホコレが誕生するまでの講話

③その他 常設展示（ジオラマ等）の見学



【研修旅行】

11月10日（水）～12日（金）2泊3日で秋田の歴史や伝統、文化、産業に触れ、地域社会に対する認識や理解を深めることを目的に、鹿角市（尾去沢鉱山・康楽館）・大館市（曲げわっぱ製作体験）・能代市（エナジウムパーク）・男鹿市（入道崎・なまはげ館・寒風山）・秋田市（道の駅秋田港）を訪問した。秋田の歴史や伝統、文化、産業に触れ、体験することにより地域社会に対する認識や理解を深めた。



(4) 実践活動Ⅱ

農業体験新聞

暑さに負けず農作業初チャレンジ！

今年の総合的な探究の時間では、枝豆、きゅうり栽培という方法を用いて手順（←）の通りに作業を行いました。ほとんどの生徒は初めての農作業のようでしたが、暑い中、仲間と協力しながら頑張っていました。実際にやってみると、畑の様子が夏休み前と夏休み明けとで、畑の様子がどう変わったのか楽しみですね。

マルメ栽培の手順
①雑草抜き
②土を耕す
③畝を作る
④シートを敷く
⑤種を植える
⑥肥料をまく

きゅうりが無残な姿に…

汗流しながらの収穫作業！

夏休みが明け、久しぶりの農作業。立派な枝豆が収穫できました。実が重なり、枝豆の味は、先週の収穫したものよりも甘く感じました。収穫した枝豆は、塩茹でして食べてみました。塩茹でした枝豆は、歯ごたえがあり、塩味がよく、とてもおいしかったです。

自分でちで作った枝豆の味が、おいしい！

枝豆が大変に進化！これにて農作業終了！

真田に種蒔きした枝豆は、低く伸び、葉が茂り、実が重なり、収穫の時期が近づいてきました。収穫した枝豆は、塩茹でして食べてみました。塩茹でした枝豆は、歯ごたえがあり、塩味がよく、とてもおいしかったです。

ぶんぶんしんぶん

世界創生

2025年
2月18日発行
2年1組
加藤健介

土に放たれた新たな生命

「土に放たれた新たな生命」というテーマで、農業体験の過程を詳しく紹介しています。写真には、種をまく様子や、成長する植物の様子が写っています。

！農作りの時が過ぎた頃！

農作業を終え、収穫した野菜を調理して食べてみました。収穫した野菜は、塩茹でして食べてみました。塩茹でした野菜は、歯ごたえがあり、塩味がよく、とてもおいしかったです。

頑張る作る新聞

みんなで頑張る「畑作り」

今年度の農業体験では、枝豆、きゅうり栽培を行いました。ほとんどの生徒は初めての農作業のようでしたが、暑い中、仲間と協力しながら頑張っていました。実際にやってみると、畑の様子が夏休み前と夏休み明けとで、畑の様子がどう変わったのか楽しみですね。

「枝豆」
「きゅうり」
「トマト」

令和4年2月発行
六郷高校普通科
ビジネスコース
2年1組4番
加藤健介

農業科学館で知ったこと
昔の農業工具の姿を
感想

収穫したきゅうり

畑でた枝豆

2年1組農作業

野菜新聞

令和4年 2月発行
六郷高校普通科
ビジネスコース
2年1組6番
加藤健介

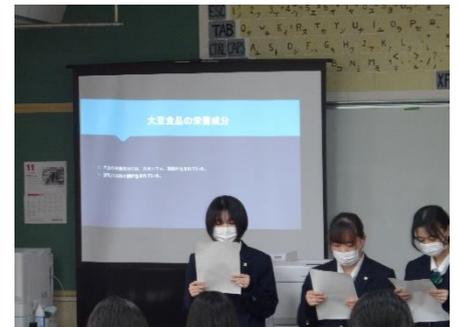
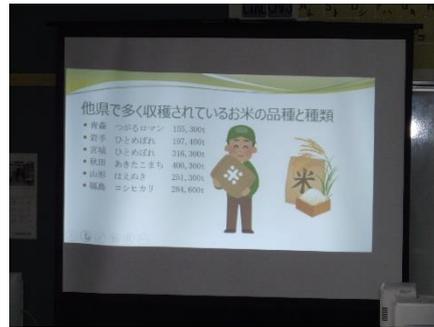
収穫した野菜達

花壇の雑草と石をよめる作業
育てた野菜達
収穫 ↓ 調理 ↓ 感想

農作業を終えて
収穫した野菜は、塩茹でして食べてみました。塩茹でした野菜は、歯ごたえがあり、塩味がよく、とてもおいしかったです。

【教養コース：農業に関するプレゼンテーション】

①	農業用水について
②	農業科学館について
③	品種改良について
④	秋田の米生産量の変化と他県との比較について
⑤	秋田の大豆生産量の変化と他県との比較について
⑥	大豆について



(5) 評価と今後の課題【総合的な探究の時間アンケートより】

【農作物の栽培活動全体を振り返って、どのような力が身に付きましたか】

- ・農業をする前の工程がものすごく大変ということがわかりました。
- ・道具等を使用した栽培方法が身に付きました。
- ・野菜の栽培をしてみてどのような性質があるかよく見る力が身に付きました。
- ・野菜を育てる技術力や土の耕し方など今まで知らなかった技術を身に付けることができました。
- ・野菜を育てる難しさや植物の性質を理解することができました。
- ・作業をすることは大変で、色んな被害的などもあって地道にコツコツと作業し続ける事が大切だとわかりました。1人では、しにくいことも協力することで少し楽になり、相手を思いながらの行動ができるようになること、周りとの協力するという力が付いたと思います。
- ・自分で栽培することになった際にやるべきことや肥料などの使い方やビニールの敷き方がわかるようになったこと。植物の栽培期間などがわかるようになりました。
- ・農作物を育て、栽培する過程の大変さを知ることができた。普段野菜などを作っている農家の方に感謝したいと思った。大変ではあったが、みんなで育てた野菜はいつも以上においしかったです。
- ・畑の作業など大体はできるようになりました。
- ・面倒くさがらずに頑張ることができるようになりました。

- ・最後までやり遂げる力が身に付きました。
- ・仲間と協力して何かを成し遂げる力が身に付きました。

【新聞作り・プレゼンテーションに取り組むことで、どのような力が身に付いたと思いますか】

- ・誰かに何かを伝えるときにどのような内容で伝えたら相手がわかりやすいのかを具体的に知り、よりわかりやすく伝える力が身に付きました。
- ・Excel で縦書きに文字を打つ力。
- ・文章をまとめることや文章の構成力。
- ・文章を考える力や情報を伝える力がアップした。
- ・文章力や限られたスペースでどのように見やすく作るかなど様々な力が身に付きました。
- ・自分の言葉をまとめて、どうやったら読みやすくなるのか等の工夫する力が身に付いたと思う。
- ・新聞は、自分の発想能力次第で相手への伝わり方や見え方も変わってくるので、色々と考える力が身に付いたと思います。
- ・実際に体験したことを文章に簡潔に且つ詳細にまとめる力。
- ・自分たちの経験や情報を上手にまとめることができるようになりました。

【総合的な探究の時間の活動を振り返り、もっと自分が身に付けたいと思う力は何ですか】

- ・早いうちに行動し始める行動力。
- ・文章力、まとめる力、相手に分かりやすく伝える力。
- ・自分から積極的に行動する力。
- ・相手をよく知る力を身に付けたい。
- ・プレゼンテーション能力をもっと身に付けたい。
- ・語彙力。
- ・全体的に、世の中で起きているニュースなど一般常識的なところが不足しているので、みんなが当たり前に分かっていることや知っている知識をしっかりと分かるようにするという常識を身に付けたい。
- ・文章力。もっと適切な表現があったと思うので文章力を身に付けたい。そのためには普段からいろいろな文章に触れておくことが大切だと思った。
- ・上手に作れるようにはなったが、まだ構成などを考える柔軟性が足りないと思った。
- ・一人で考えて行動する力。

生徒の感想から、2年間に渡る体験活動を通じて、美郷町や農作物の栽培に関する理解が深まっただけでなく、それに関連した様々な力や、今後身に付けたいと思う力が明確になったことがわかる。体験から生徒自身がその必要性や重要性に気がつくことができたことは今後の学習活動において主体的に学ぶ姿勢の土台になると考える。しかし、これまでの探究活動を振り返ると、教師が内容を精選し計画したものを実践する形式であった点は課題である。これから変化の激しい社会の中を生き抜いていかなければならない生徒にとって必要な資質は、感性を豊かに働かせながらよりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができる力である。これを踏まえ次年度は、これまでの経験を反映させ、生徒自身が計画・実践する活動を重視し、自ら学ぼうとする楽しさや大切さを実感する場に繋げていきたい。

9 プログラミング教育と地域貢献

教頭 伊藤 哲

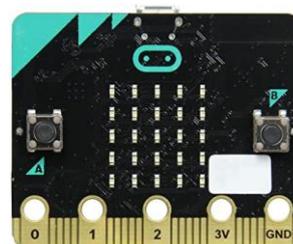
1 はじめに

小学校では2020年度、中学校では2021年度、高等学校では2022年度からプログラミング教育が必修化された。プログラミング教育の目的は、コーディング（プログラム言語を用いたプログラムの記述）する技術を重視するのではなく、プログラミング的思考力を育むことが重要とされる。プログラミング的思考力とは、「目標を達成するために、物事を順序立てて考え、試行錯誤しながら結論を導きだす考える力」である。

今年度、本校では来年度からのプログラミング教育必修化を見据え、教科「情報」の授業の中で、プログラミング教育を試行的に実施した。

2 マイクロビット (micro:bit)

教材に使用したのは、2015年にイギリスで開発されたマイクロビットという小さな教育用コンピュータである。イギリスでは、11歳、12歳の全ての子供に無償配布し、プログラミング教育が行われている。また、フィンランドなど他の国々でも同様の取組が行われている。



マイクロビットには、LEDやスイッチのほか以下のセンサや機能が搭載されている。

- ・光センサ …… 光を検知。
- ・加速度センサ …… X、Y、Zの3方向の傾きを検知。1G～8Gの範囲。
- ・デジタルコンパス …… 地球の磁力を検知。
- ・磁力センサ …… 磁石の磁力を検知。磁力は [μ T] の単位で数値化。
- ・温度センサ …… -5°C ～ $+50^{\circ}\text{C}$ までの温度を検知。
- ・タッチセンサ …… 指で触れたのを検知。
- ・無線機能 …… マイクロビット間で無線通信が可能。グループ分け可能。
- ・Bluetooth …… スマートフォン等との通信機能。

3 ビジュアルプログラミング

プログラミングというと、英語のような命令コードをキーボードを用いて打ち込んでいくのが一般的であるが、マイクロビットのプログラミングは、右図のような様々な機能をもったブロックを、マウスを用いて積み上げていくビジュアルプログラミングと呼ばれるものである。

ビジュアルプログラミングは、ともすれば子供向けのように見えるかもしれないが、様々な機能をもったブロックが数多く用意されており、その全ての機能を使いこなすにはかなりの時間を要するものと思われる。マイクロビットのプログラムは、インターネット上に様々なものが公開されているが、かなり複雑なものもある。



4 プログラミング教育の概要

1年生1クラスは20名だったので、マイクロビットは教師用も含め25台用意した。

右の図は、プログラミング画面である。マイクロビットのプログラミングはインターネット上の専用サイトにアクセスして行うことから、生徒個々のタブレットを用いることとした。



授業では、LEDの点滅、スイッチ入力、

温度の測定、傾きの検知、無線通信などのプログラムを「社会と情報」の授業で3時間、実施した。最初は戸惑う場面も見られたがほとんどの生徒がすぐにコツをつかんで、自分の力で学習を進めていた。身の回りの家電がインターネットにつながるIoTや、家庭用ゲーム機にも応用されている技術の土台となるプログラムなので、生徒の様々な気付きを促すことができたと思う。

私は、工業高校でコードを記述するプログラミング教育を長年行ってきたが、コードの1文字を間違えただけでプログラムが動かなくなったり、かなりの時間をかけてコードを打ち込んでプログラムを完成させても、その実行結果はかけた時間と見合わないものだったりすることから、プログラミングは難しい、疲れるといった印象をもつ生徒を数多く見てきた。

マイクロビットのビジュアルプログラミングは、コードを記述してプログラミングする一般的なプログラミングの1/10程度の時間で同じ結果が得られる。さらには、画面の中でプログラムの実行結果を確認するのではなく、マイクロビットという目の前のコンピュータを制御することでプログラミングをより身近なものとして感じることができ大きな達成感を得ることができる。このことから、マイクロビットとビジュアルプログラミングは、プログラミングを初めて学習する生徒に最も適している教材であると思う。

5 六高生が教える「家族とプログラミング教室」

プログラミングを学んだ1年生の生徒たちに呼びかけ、美郷町、大仙市、仙北市の小学生とその御家族を対象とした、マイクロビットを用いたプログラミング教室を開催した。1月5日から8日までの4日間で、午前と午後の1回2時間の講座を7回実施した。説明用のプレゼンテーションとテキストは、授業で行った内容を基に、私が準備したが、講師は全て、本校の1年生の生徒が務めた。その様子はAKTの「Live News あきた」と秋田さきがけ新聞に取り上げていただいた。4日間7回の講座には、テレビ報道を見た秋田市の小学生も参加し、合計23組45名がLEDの制御や無線通信などのプログラミングを体験した。



新聞記事（使用許諾取得済）

6 おわりに

今年度、試行的に実施したプログラミング教育により、本校としてのプログラミング教育の方向性は定まったと思う。次年度は指導内容に系統性をもたせていきたい。また、公開講座については、コミュニティ・スクールの事業の一つに位置付け、生徒会が中心になって次年度も行っていきたい。

編集後記

令和3年度も昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の対策に追われた1年となりました。このような状況下でも、何とか令和3年度の「研修収録」をまとめることができましたこと、原稿を寄せてくださった皆さまに心より御礼申し上げます。

特に本年度は、「一人一台タブレット導入」により、授業だけでなく教育活動全般において大きな動きがありました。校内行事の新しい実施の仕方や、授業研修週間における授業改善のための取組は、今後の教育活動の変化の重要な第一歩になったと考えます。その意味で、本研修収録が有意義に活用されることを願っております。

本集録が、皆様の教育活動の一助になれば幸いです。

令和3年3月 研修部